部　報

令和2年～令和3年　No.64

北海道大学馬術部

◆ 目 次 ◆

巻頭書 ..... 井上　京　- 3 -
指導部報告 ..... - 8 -
活動報告 ..... - 12 -
調教報告
　北雛号 ..... 田中　沙季　- 25 -
　北鷹号 ..... 山中　竜馬、武井　陸　- 27 -
　北響号 ..... 武井　陸　- 29 -
　北汐号 ..... 植田　咲喜　- 32 -
　北稜号 ..... 田中　沙季　- 34 -
　北暁号 ..... 宮川　寛希　- 36 -
　北琉号 ..... 坂本　信仁、菅野　隼人　- 41 -
　北陽号 ..... 吉村　匡平　- 45 -
入厩報告
　北叡号 ..... 山中　竜馬　- 48 -
北暁号について ..... 駒田　智美　- 49 -
北水報告 ..... 清水　俊希　- 52 -
卒部にあたって ..... - 54 -
部員紹介 ..... - 57 -
現役部員名簿 ..... - 68 -
OB 名簿 ..... - 69 -
後援会会報 ..... - 78 -
編集後記 ..... - 81 -

巻頭書

馬術部は一つのチーム

部長　井上 京

昨年の 2020 年 3 月以来，コロナ禍のために社会はさまざまな影響を受け，以来，我々の生活も活動もいろんな制約を受けています。大学での授業も遠隔授業が主となってしまい，同級生どうし顔をあわせる機会も激減してしまいました。クラブ活動だって新歓活動もできず，団体での練習もだめということになりました（今は少し緩和されましたが)。

当然，コンパもできず，新歓コンパも役員交代コンパも追いコンもない。そういえば，コンパがないので「都ぞ弥生」も「馬術部讃歌」も久しく歌っていない。1 年生の諸君は入学式もなかったので，北大オーケストラの「都ぞ弥生」の演奏すら聞いていないのではないでしょうか。

face-to-face の人付き合いができにくくなったから，こういうことを書くわけではありませんが，最近の若い人（こんな言葉遣いをするということは，私はもう若くないと自分で言っているようなものですが）に接していて，何かの折に気になるのは，個人主義的な振る舞いがふと目につくことです。人のことに過度に干渉しない，自分のことには干渉されたくない，といった態度が目に留まることがあります。いや，今の人に限らず，私もそうだったかもしれません。

しかし，個の確立は人の成長の過程では当然あるべきことですが，ことクラブ活動で，そのような態度は得策でしょうか。私のことは私のこと、私の馬のことも私のこと。他の人は他の人，他の人の馬は他の人のこと，そんな態度になっていませんか。むしろ，open mind で広く聞く耳を持ち，人にも関わっていく術を持つほうが，自分のキャパシティを膨らませることにつながらないでしょうか。

何年も前のことですが，ある年の追い出しコンパの席上で，送り出される前年度のキャプテンが良い挨拶をしてくれました。

「馬術競技は個人競技だが，馬術部の活動を個人の活動とは思っていなかった。北大馬術部が一つのチームだという想いがあってこそ，クラブをやってくることができた。」正確ではありませんが，そのようなことだったと思います。

そのとおり。ほとんどの人が初心者として馬術を習い始め，上級生から教わって，馬を自分たちの手で養い育てていく。その馬を先輩から後輩へと引き継いでいく。一人の選手，ひと組の人馬を送り出すためにみんなが協力し後押しをする。これをチームと言わずしてなんと言おう。

スポーツとしての馬術競技は，馬場馬術も障害馬術も，基本は個人競技です。馬一頭と人一人，人馬の組み合わせで優劣を争う。むろん，団体戦はありますが，これも個々の人馬の成績の積み上げです。野球やラグビーなどの団体競技は，個人の技量に加え，チームとしての戦い方，競技への取り組み方が重要となるのに対し，個人競技は個人の技量のみが重要ということになります。

でも，部として考えたとき，これだけで，すなわち個人の技量にのみ重きをおくような取り組みをしていくだけで，良いのでしょうか。もし個人が競技に臨むという視点だけで馬術を捉えるのなら，何も馬術部という団体に所属しなくとも，極端な話，乗馬クラブで個人の技量を高めれば良いことになります。お金はかかるものの，自分の馬を預託し，自分で調教してその馬で競技に臨めば良いのではないか。どうして部として団体活動をする必要があるのでしょう。

ひとつ明確なのは，一人ではできないことでも，みんなとならできる。馬を知る先輩がいて仲間がいれば，自分一人だけでは到底到達できないところでも，行き着くことができる。それがチームとして取り組むことの良さであり，意義であると思います。さらに言えば，特に若い人達にとって，今まで知らなかった世界を先輩はじめ周りの人達が広げて見せてくれるということもあるでしょう。特に下級生にとっての上級生は，あこがれを持って仰ぎ見られる存在です。そんな上級生がみんなを率い，みながチームとして，あるいは仲間として，活動を盛り上げていく，馬術部はそんなチームであって欲しいと願っています。個々の部員が勝手に馬に乗るだけの集まりでは決してない。ラグビーでいう One for all, all for one. ちなみに，all for one は「一人のために」ではなく，「一つの目標のために」だそうです。

どうも言わずもがなのことを書き綴ってしまいました。大学の課外活動としての部活動が，乗馬クラブ的であって欲しくないなとの思いから，筆が滑ってしまいました。語弊のないよう書き足しますが，むろん，社会には乗馬クラブも必要です。乗馬クラブには市民が馬に接し乗馬の機会を提供するという貴重で重要な役割がありますし，大学生が乗馬クラブに所属することもなんら批判されることではありません。でもせっかく大学の課外活動の団体として馬術部が認められ，北大には歴史ある北大馬

術部があるのですから，その伝統に若い日のいっとき，染まってみるのも代えがたい人生経験だと思うのです

早くコロナ禍が退散し，普通の日常が送れるようになることを，そしてオリンピックで世界最高の馬術競技が見られることを，祈っています。

後援会会員の皆様へ

平素より北大馬術部に対し変わらぬご支援を賜り，誠にありがとうございます。コロナ禍での不自由な生活を余儀なくされるなか，皆様にはご健勝でお過ごしのことと存じます。

広く報道されていますとおり，大学もコロナ禍の影響を受けながらこの一年が過ぎて参りました。北大でも感染拡大防止のための大学の行動指針レベル（BCP）というものが策定され，2020 年 3 月の卒業式および 4 月の入学式は中止，授業開始日がひと月ほど延期され，その講義も原則，遠隔授業（オンライン，オンデマンド）となりました。むろん馬術部をはじめとする課外活動もいろいろな影響を受けてきました。特に 2020 年 7 月に行動指針レベルが 1 に引き下げられるまでは，全ての課外活動は活動自粛となり，全施設が閉鎖となりました。ただ馬術部は，馬を飼養管理しているという特殊性が考慮され，練習は禁止されていましたが，部員達は感染症対策を講じながら馬の管理に勤しんでおりました。

5 月連休中の半澤杯は中止せざるを得なかったものの，コロナ禍が小康状態となった 7 月 10 日から 11 月 18 日の間には，大学の行動指針レベルが引き下げられ，道馬連主催の競技会に大学の許可を得た上で参加し， 10 月の北大ホースショーも北大馬場で開催することができました。残念ながら夏の北日本学生馬術大会は開催されず，全日学予選はビデオ審査という変則的な形となりましたが，10 月 27 日～11 月 3 日に山梨県馬術競技場で開催された全日学にも出場を果たすことができました。この間，前主将の宮川寛希君はただ一人の 4 年生として孤軍奮闘，部を率いてくれたことも，特筆に値することでした。

11 月 18 日以降，ふたたび行動指針レベルが 2 に引き上げられ，2021 年 5 月上旬まで現行レベルが維持されることが決まっております。課外活動についても原則全面禁止であることに変わりはないものの，ただ若干規則が緩和され，感染防止に最大限配慮した少人数での練習活動が，許可を得た上で認められるようになりました。しかし

依然，大会への参加，合宿，道外遠征は一切禁止されており，2021 年の半澤杯も開催できないこととなりました。今後の成り行きが大変懸念されるところです。

このようななか，後援会ならびに関係者の皆様にはいろいろな形でご支援をいただいて参りました。2018 年の秋に部の財政が危機的な状況に陥っておりましたが，昨年度の部の会計年度末である 2019 年 12 月時点で黒字に転じることができ，さらに今期の会計報告にありますとおり，今年度末には大幅な繰越金を残すことができるようになりました。その理由として，多くの皆様からご寄付をいただいたこと，新入部員を多数得て部員数が大幅に増加したこと，コロナ禍のため遠征が少なかったこと，そして何より，部員達が頑張って財務管理をおこなったこと，があげられると思います。

ご寄付や支援金については，北大馬術部後援会，ノーザンファーム（代表吉田勝已様）や北海道乗馬連盟はじめ多くの皆様よりご厚志を賜りました。篤く御礼申し上げます。ノーザンファームからは北大馬術部だけでなく，帯広畜産大学と酪農学園大学も含めた道内 3 大学馬術部にご支援をいただきました。このことにはノーザンファームにお勤めのＯＢの川崎洋史さん（H12 卒部）と内山知さん（H22 卒部）もご尽力くださったと聞いております。誠にありがとうございました。

今回いただいたご寄付ですが，その多くは馬術部の会計口座そのものではなく，大学の会計に預けております。このことについて少し説明をさせていただき，ご理解とさらなるご協力をいただければと考えております。

北大では「フロンティア基金」という制度を設け，各種の寄付を受け入れる窓口としております。今年度馬術部にいただいた寄付の多くも，このフロンティア基金の制度を利用しました。基金の使途には様々な対象が掲げられており，また使途を指定しない寄付も可能です。いただいた寄付は大学本部によるオーバーヘッドはなく，全額を指定先で使うことができるようになります。支出入は大学の事務で管理されます。また寄付をくださった個人・法人団体に対するお礼の特典や，税制上の優遇措置もあります。

馬術部にフロンティア基金を通じてご寄付いただく場合，現在，2 つの方法があります。一つは，「使途を限定したご寄附」のなかの「学生支援事業」を選択し，馬術部を指定していただく方法，もう一つは，フロンティア基金のなかの「北大みらい投資プログラム」というものから「課外活動等支援資金」を指定いただく方法です。

後者については現在，馬術部の他，硬式野球部と交響楽団が募集しています。馬術部と硬式野球部は，本来は大学の財源で整備すべき老朽化した施設の修復のための募金，いっぽう交響楽団は 100 年記念事業のための募金です。2020 年 12 月に，部員から「馬術部通信 12 月号」がメール配信されたかと思いますが，そこで「クラウドファンディング」として紹介されていたのが，このフロンティア基金の制度を使ったものです。すでに多くの後援会会員の皆様からご寄附を頂戴しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

フロンティア基金はネットを介して簡単にお申し込みいただけるようになっております。もしご不明のことなどありましたら，井上か，本学の担当窓口（フロンティア

基金事務室）まで遠慮なくお問い合わせください。また詳細は「北大　フロンティア基金」で検索をかけていただき，ホームページをご覧いただければ幸いです。

コロナ禍はまだしばらく沈静化するまでかかりそうな勢いです。どなたさまもどうかご自愛専一にて健やかにお過ごしくださいますようお願い申し上げ，ご報告とお礼とさせていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ノーザンファーム吉田勝已代表への感謝状の贈呈。2020年7月26日ノーザンホースパークにて。

左から，内山氏，市川先生，宮川主将，吉田代表，井上，江口監督

指導部報告

指導部より

2019年9月より監督が江口遼太（H25）に交代して１年あまりが経過しましたが、部報紙上をお借りしてこの１年ほどの活動を報告させていただきます。

Ⅰ．この１年（2019年9月-2020年12月）の活動

1）部馬の動静

・ダノンクライムの入厩

ここ3年ほど新馬を入厩させていなかったこともあり、かねてから1頭の新馬の導入を検討しておりましたが、ダノンクライム（6歳、セン、芦毛、2014年4月17日生、父：ヴィクトワールピサ、母：シェルズレイ）が9月3日（木）入厩しました。同馬は馬術部 OB の寺島良調教師（H16）のご厚意により、競走馬引退時にご寄贈いただきました。体格が大きく性格も穏やかであり、今後の活躍が期待されます。

2）ミーティング

監督交代後から、定期的に指導部と現役の間で話し合いをもつべきとの合意がなされ、2か月に一度を目安にミーティングを行うこととなりました。新型コロナの影響で中止せざるをえないこともありましたが、以下にこの1年ほどのミーティングの概要をまとめます。

・2019年12月15日

部長、指導部・若手 OB と現役部員の間でミーティングを行い、現役部員からの現状報告の後、冬場の練習や次のシーズンに向けての方針について意見交換を行った。上級生が少なく下級生が多いことから、馬の調教や上級生自身の練習に割く時間がなかなか取れないことが問題点として挙げられ、若手 OB が出来るだけ練習も見ていくことを確認した。また、部員数の増加などから春には馬を増やしたいとの要望が現役部員から出され、新馬を探しつつ財政面や調教人員の確保などの様子を見ながら検討することで同意した。さらに、次のシーズンの北日が東北開催であることから、財政面の不安も挙げられた。必要であれば後援会からの支援を要望する方向で、どのような支援内容が考えられるか意見交換し、今後も財政状態を見ながら継続的に検討することとなった。

・2020年2月9日

部長、指導部・若手 OB と現役部員の間でミーティングを行い、現役部員からの現状報告と東京 OB 会新年会への参加報告の後、春休みの合宿や馬の入厩について意見交換を行った。馬を増やしたいという要望について、現役部員から財政面は問題ないことが資料で示された。また、馬を入厩させる場合、新馬1頭とすぐに練習に使える調教済みの馬1頭を入れたいとの要望があった。指導部として、練習だけでなく競技を目指すことのできる馬が馬術部の馬として望ましいとの考えを現役部員と確認し、新馬を1頭入厩させる方針で一致した。さらに現役部員に対して指導部から、定期的な活動報告やコンパの開催などについて、OB への連絡をしっかり行うように要望した。

・2020年7月5日

指導部・若手 OB と現役部員の間でミーティングを行い、現役部員から部の財政面や大会などに対する新型コロナの影響の報告の後、それに応じた新入部員への対応や北日に向けての方針について意見交換を行った。新型コロナによる大学からの課外活動禁止の影響を受け、部の活動を縮小していたこと、新入部員の入部が遅れていることなどが報告された。厳しい状況ではあるが、北日は各大学でのリモートも含めて開催する方向であることから、大学の指示に従いつつ可能な範囲で調教と練習を進め、北日本学生大会の競技への出場を目指すことを確認した。それに伴い、若手 OB の山川君（R2）、菅野君（R2、水産卒）と江口で競技を目指す馬の調教と選手候補の指導を行っていくこととした。また、財政面でもバイトや大会の収入減少があったものの、各方面からの寄付により当面の問題はないとの報告があった。

・2020年9月29日

指導部・若手 OB と現役部員の間でミーティングを行い、現役部員から代替わりと全日の予定、今後の活動方針の報告を受けた後、2年生および1年生の練習方法や9月に入厩した新馬（ダノンクライム）の調教について意見交換を行った。代替わりに伴う新たな役職人事とともに、この時点で26人の1年生が入部したことが報告された。現状1年生全員が毎朝練習に参加するわけではないが、多くの1年生が参加しており、練習の鞍数を確保するのが難しくなっていることが問題点として共有された。この対策として、すでに調教がある程度進んだ馬を入厩させたいという要望が現役部員から挙がったが、直近に新馬を入厩させたこと、練習や競技に使うにあたり調教や維持をできる人手があるか等の問題があったため、冬の間は現状の馬の頭数（9頭）で様子を見て、次の4月頃にもう一度検討し、判断することとした。また、新馬の調教に関しては江口を中心として現役の上級生とともに行い、調馬索を上手く使いながら基本的な調教を進めることを確認した。

Ⅱ．現状と今後の課題

1）繋養馬と新馬調教

現在の繋養馬の構成は、最高齢が北響14歳、最若齢がダノンクライム6歳の平均10.3歳となっている。ここ2年ほどは部員数（特に上級生）の減少や財政面の問題などもあり新馬を入厩させていなかったが、今年は上述したようにOBの寺島良調教師（H16）のご厚意によりダノンクライムが入厩した。馬術部として定期的に新馬を入厩させて調教し、高齢馬を離厩させるというサイクルを常に回していく必要があるとの認識を指導部と現役部員で共有しており、今後も練習に使いながら競技を目指すことのできる馬の調教を継続していく。

監督交代時の繋養馬の状態に関しては、1年ほど現役部員中心の調教が続いていたこと、上級生の人数が少なく手が回らないことなどから、調教段階が現役部員の思うように進んでいないように感じた。そのため、若手OBの山川君（R2）に北暁（ノーステア）と北鷹（シュガーシャック）、菅野君（R2、水産卒）に北響（カノンコード）と北琉（ドラゴンケーニッヒ）、江口が北汐（タイダルベイスン）と北陽（ノガロ）をそれぞれ担当し、調教と競技を目指す2年生の指導を併せて行うこととした。今年は北暁、北雛（アップヒルティガー）、北稜（ダノンアンチョ）以外の馬は北日本学生大会の競技に参加しなかったが、他の馬も概ね2年生が90cm程度の障害種目でゴールできる状態であり、来年の北日本学生大会へはさらに2-3頭が出場出来るのではないかと期待している。

2）部活動・練習

・前述した通り、ここ2年ほどの馬術部は上級生の部員が少なく、下級生の部員が多い状況となっている。今年は4年生1人、3年生3人に対して1・2年生が20人前後ずつとなっており、上級生の負担が大きい状態が続いている。最近は、退部する部員は少なくなっているため改善の兆しはあるが、今年は新型コロナの影響で1年生の入部が遅れたことなどもあり、未だしばらくは馬の調教や下級生の指導面で上級生部員の苦労が続くと思われる。指導部としては、調教だけでなく部員の指導においても若手OBと協力してサポートしていきたいと考えている。

・昨年は、大学の新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動指針により、4月中旬から7月中旬まで課外活動が全面的に禁止された。馬術部は生き物である馬を繋養するため必要最低限の活動は例外的に認められ、部員全体を2～3班に分けて活動を縮小することでこれに対応した。また、7月中旬から一度全面禁止が解除されて一部の活動が許可されたが、11月中旬以降新型コロナの第2波を受けて再び課外活動が禁止された。現在も部員を3班に分けて活動を縮小しながらも、工夫して日々の馬の管理・運動を行っている。

・上述した問題点とも関連するが、ここ数年指導部と現役部員が共有する課題として系統的な練習体系の構築が挙げられる。下級生、特に1年生の練習に関しては安全面に十分配慮し、馬に乗ることを楽しみながら上達できる練習環境が必要である。これは指導部側の課題でもあり、来年は指導部からより体系的な練習方法を提案し、現役部員と相談しながら練習方法の確立を進めていく考えである。

・1・2年生の部員が増加したことで、財政面およびマンパワーの点での問題は改善しつつあると思われる。一方で、部員の減少に伴って繋養馬の頭数を減らした影響により、部員全員に十分な練習機会を提供することが難しくなりつつあるという現状がある。今年新馬を入厩させ調教を進めているが、下級生の練習に問題なく使えるようになるまでにはある程度時間がかかると考えられる。次の4月には新たに1年生が入部し、さらにこの問題が厳しくなることが予想される。新馬の調教を含め、部員が十分に練習できる環境を整えられるような方策を検討する必要がある。

・監督交代時に1つの問題として挙げられたのが、現役部員と指導部のコミュニケーション不足であった。そのため、定期的に指導部と現役部員のミーティングを行うことで、両者のコミュニケーション改善を図ってきた。また、若手 OB に調教や指導を依頼し、OB および指導部と現役部員がより近い距離で協力していける体制の構築を目指した。若手 OB の協力もあり、指導部・現役部員間のコミュニケーションは改善しつつあると思われるが、ホウレンソウや意識の共有が十分でない点も残っている。今後も双方の努力によりより円滑なコミュニケーションを行える関係を築いていきたい。

昨年の監督交代より、新馬調教や練習体制、コミュニケーションの改善などに取り組んできました。いくつかの面では改善が見られつつありますが、未だ十分でない点も多く残っております。また、新型コロナの影響もあり、今後も現役部員にとって難しい状況が続く可能性があります。指導部としましては、今後も現役部員の活動を支えるため必要な協力・助言・指導をしていく所存です。OB・OG の皆様にも、今後ともご支援・ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

以上

（2021.2.13 文責 江口遼太）

活動報告

《前主将から》

宮川　寛希

1年間、主将として部の運営に携わらせていただきありがとうございました。私が主将だった1年間は、前年度先輩方がしてくださった財政面、部員数の減少からの立て直しからいかにして北大馬術部の今後の発展につなげていくかというところに重きを置いて活動していました。特に、人を大事にすることを考え、下級生一人一人に気を配り、馬の調教は進められなくとも人馬共に怪我なく緊張感は保ちつつも楽しく部活をすることを考えていました。練習面に関しましては、上級生が少ないこともありましたが、多くの馬の担当を下級生に任せ、自分たちが北大馬術部員として責任ある立場として携わり、自分から行動していってくれたらという思いで活動してまいりました。

ここで、この代で新たにおこなっていた活動を少し記載いたします。

・馬場の外での騎乗

例年、北大馬術部は雪の降り始めと雪解けの時期の雪が積もらず完全に馬場が凍っている時期は、それぞれ2週間前後ずつ馬休にしなくてはなりませんでした。そのため、今年度は馬場外の農場の通路において練習をおこなっておりました。今まで、馬休や無理して固い馬場で運動していたことが減り、馬休日も合計で10日ほどに抑えることができました。また、シーズンに入ってからも農場の未利用の場所で運動をおこなうこともありました。今年はノーザンホースパークでの野外馴致に行ける回数も少なかったのですが、人馬の野外での運動の緊張緩和につながったと思います。

・横木通過、野外障害の飛越

部員数が多くなったこともあり、あまりたくさんの障害練習をみんなでできなくなったため、例年以上に横木通過を重視した練習をおこなっていました。下級生には、横木の3歩前から数えること、通過する前後は真っすぐ抜けることを徹底してもらいました。また、高い障害は失敗するとダメージが大きいと考え、箒やブロック、雪かき道具など60㎝もない低い障害物の飛越を下級生も含め試みました。馬が不安に思ったとしても人が、行けといった時に行く関係というものをより作ろうとしていました。結果として、今シーズンでノガロやドラゴンケーニッヒは野外馴致を進めることができたと思います。

・他大との交流

今年度は、春休みに宇都宮大学、東北大学、帯広畜産大学と3大学もの合宿を受け入れました。他大の同期との交流は、練習が単調になりがちな雪の季節においてとても刺激になったと思います。

新型コロナウイルス問題により、活動が制限される面も多々ありましたが、試合に出る人たちは全員が成長を感じられる1年になったと思います。また、馬が少なく、部員が多い状況で、野外障害作りや座学、筋トレや部室の隣にピザ窯を設置しみんなでピザを焼くなど馬に乗る面以外の活動で部としてのまとまりを強化することもしていけたと思います。そして、シーズン最後には3人とも大学から馬術を始めた身ながらも、全日で3人全員が完走することができ、非常に良い1年になったと思います。

代替わりし人数の多い今、これからの馬術部では馬の状態や部員数の維持ではなく、人馬の更なる成長や北大馬術部の発展が求められるようになると思います。その中で、現役の皆さんには宮川主将から田中主将への変化に対応して、成長していって欲しいです。また、私たち OB も現役の成長を見守っていき、応援していけたらと思います。

宮川兄と北暁号　全日にて　©UNIVAS

同上　クロスカントリー競技　©UNIVAS

《主将》

田中　沙季

現在、部員は3年生3名、2年生16名、1年生24名の計43名、馬匹は9頭で活動しています。2年前は部員8名と危機的状況にありましたが、今では人数が多いためバイトや当番の負担が減り、活気が増え、部の雰囲気は良くなっていると感じます。

一方、選手志向ではない部員が多いこと、上級生が少なく練習を十分に見られていないこと、経験者がほとんどいないことなどから、部員の技術向上が大きな課題となっています。特に今年はコロナの影響で大会や合宿に行けなかったり、練習に人数制限を設けたりと練習量がかなり減少しています。少ない乗鞍でも人馬共に成長できるよう、練習方法を工夫していきたいです。

幸いにも新馬以外の8頭は調教が進んでおり優秀な馬たちが揃っています。現在の活気を維持できれば、馬術部が長年目標としてきた全日団体入賞という目標にも近づくことができると思います。2年後、3年後にも強い部活となれるよう、自分のできる限り馬と部員の育成に尽力していきます。また、OB・OG の方々をはじめ支えてくださっている皆様に結果で恩返しができるよう努力してまいりますので、今後とも応援をよろしくお願いいたします。

田中姉と北稜号　全日(二回走行)にて　©UNIVAS

《副将》

武井　陸

現在の副将の主な仕事としては、大会や当番の人員表の作成、アルバイトやレンタカー関連での外部との連絡といった事務的な作業が挙げられます。しかし今最も副将に求められていることは、部員の個々の意思が尊重されつつ部として一丸となり上を目指していくことのできる環境づくりだと感じています。今年度もたくさんの１年生が入部し、40人を超える体制となりましたが、感染症対策による活動制限や入部時期の遅れなどもあり、例年以上に個々とのコミュニケーションが不足しているのが現状です。また、個々の価値観も多様化しており、全日を目指す人から騎乗せず馬体管理に重点をという人まで様々です。そういった価値観を互いに理解し、等身大の自分でいられる環境で北日・全日を目指して部員一丸となることがこれからの馬術部に求められていることだと考えています。

大学の感染症対策指針の強化に伴い、2021年1月現在、部を3つに分けて活動しています。副将はそのうちの一つのグループでリーダーとして動くことが求められています。まだまだ半人前の身ではございますが、幸いにも同期を始め知識・経験豊富な先輩ややる気のある後輩に恵まれておりますので、力を合わせ知恵を出し合い精進して参ります。

指導部の方々をはじめ、OB,OG の皆様にはいつも大変お世話になっております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

《主務》

石田　隆悟

はじめに、残念ながら主務だった部員が立て続けに退部してしまい8月頃からのバタバタとした引継ぎとなってしまい正直、業務内容についてもその都度前主務、前々主務に確認しながら行っている状況です。また体育会という組織としても感染症の打撃を大きく受けています。対面での定例会は中止され大規模な組織に部活の代表として出席している実感があまりわかないのが現状です。12月現在、馬術部を除くすべての体育会の部活は活動を禁止されており馬術部だけが例外的に活動を続けていくために、感染症対策案の提出など例年にはない仕事もありました。他にも今年度は PV 撮影のために馬を貸し出したり、馬を利用した新事業に関するヒアリングに協力したりと外部からのオファーにはなるべくオープンに対応しました。学馬連の登録や公認団

体の申請など本格的な仕事は春からになりますが、外部との関係構築や信頼を維持することを第一に責任感をもって業務にあたらせていただきます。

《運営》

駒田　智美

前運営長の退部により、今年度の半ばから運営長を務めました。このため、十分な引き継ぎがないまま仕事をすることになり、運営の先輩方に非常に迷惑をかけてしまったことを反省しています。

運営の主な仕事内容は、例年と同じく、大会運営、活動状況・大会成績の発信、部報の作製でした。本年は新型コロナウイルス感染症の影響で、コンパが全て開催できなかったため、その準備に関する業務は行いませんでした。

広報活動についてですが、運営に属する部員数の増加を受け、新たに広報班を設けて管理を一任することと致しました。これにより、昨シーズンの課題であった大会成績の即時報告や、近年重要な情報発信ツールとなっている Twitter の投稿内容の適正化を目指して参ります。また、コロナウイルス感染症対策の影響で対面での新歓活動が困難になったことを受け、新たに Instagram のアカウントを開設いたしました。アカウントは@hokudai_uma です。こちらでは馬の普段の様子を写真や動画で発信して参りますので、ぜひご覧ください。

本シーズン序盤はコロナウイルス感染拡大の影響で大会の中止を余儀なくされ、運営としても収入の減少や 1 年生に十分な大会運営経験を積ませられないなど、思うようにいかない一年となりました。しかし、ノーザンホースパーク、北海道乗馬連盟、ご支援くださった OB の皆様、その他たくさんの方々のご尽力のおかげで、シーズン後半にはノーザンホースパークでも、また北大の馬場でも大会を再開することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

来シーズンも不安定な情勢が続くことが予想されますが、今シーズンの経験を糧に精進してまいります。

《馬匹》

伴　日向子

部員の充実もあり、馬匹は現在3年1人、2年4人、1年3人の計8人で活動しています。部員が少なかった際に中心人物となっていた先輩の引退により、若干の不安もありましたが現在は薬品・飼料・装蹄等と部門ごとでの円滑な業務に取り組めております。

本年度は、9月3日に OB の寺本調教師の紹介でダノンクライム号が入厩しました。本馬は9月9日に鈴木重雄さんに去勢手術を行っていただき、その際には近くでの手術の見学や睾丸の解剖学的説明といった貴重な知見を得ることができました。お忙しい中迅速に対応していただき本当にありがとうございました。

飼料は数年前より NJF 様から購入しており、ノーザンホースパークで行われる大会の際には、現地まで飼料を輸送していただけるようになりました。また、例年4月の末に開催される半澤杯や10月の北海道大学主催交流戦など北海道大学主催の大会では協賛もいただいております。

薬品や馬体の異常に関しては指導部で獣医師の川崎さんに、また、馬の取り扱いについては指導部の堤さんにご指導の機会をいただくなど、多くの方のお力添えで今年も無事、人馬とも大きな事故なく過ごすことができました。この場を借りて御礼申し上げます。

未熟な面も多々あるとは思いますが、部員一同、誠意をもって馬匹に向き合っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

《作業》

山中　竜馬

今年度は作業長が8月ごろに代わって私になったので、８月以降の活動を記していきます。

まず、作業の人数が大幅に増えたことから、作業内での担当の見直し･再振分けを行いました。作業で行うべき常務は物品管理であるべき、という考えを基に、厩舎･プレハブ･馬具庫の物品管理、支援課との連絡、日用品管理、と大きく3部門に分け、割振りを行いました。後ろ２つは以前からありましたが、物品管理に関しては新設しました。物品管理の担当になった者は、まず馬術部には何があるのかの確認と、使えなく

なって残されていたものをおおよそ処理することを行いました。これにより、モノを探す手間が少し省けたのではと思います。

今年は丸馬場の数が少ないということから、1年生が主体となってA埒を計10個作りました。次年度の練習の助けになれば、と思います。

しかしながら、馬場の砂質や水はけの悪さ、残されている自動車の処理など問題も残っています。次年度取り組んでいこうと思います。

《会計》

森　翠

2020年は新型コロナウイルスの影響でバイトや大会が中止され、収入の減額が懸念されていました。しかし、このような状況にも関わらず多くの新入生が入部してくれて安定した部費収入を得られたこと、大会の中止により支出が減ったこと、そして複数団体からコロナ支援金を頂いたことにより、財政に余裕を持って2020年を終えることができました。また、後援会より頂いた全日学補助金は、馬輸送費や宿泊費に使用させて頂きました。ありがとうございました。

2021年も馬術部の活動が円滑に進むように、より安定した財政運営を心掛けて行きたいと思います。OB・OGの方々には、馬術部の更なる発展のためご支援・ご協力のほどよろしくお願いします。

北海道大学体育会馬術部　2020年度　　収支決算書

2020年1月～12月

単位：円

項　　目	予算	2020年度決算	増　減	備　　考
Ⅰ．収入の部			正は収入増	
1. 部費	1,800,000	1,660,000	-140,000	部費未収金¥480,000を除く
2. アルバイト	3,080,000	3,303,834	223,834	
メインフィールズ	300,000	203,500	-96,500	8月ごろからバイトなし
フロンテア	240,000	456,000	216,000	
セール	1,000,000	950,000	-50,000	
JRAポニー	240,000	222,645	-17,355	
札幌競馬場	1,300,000	1,259,892	-40,108	未収金¥158,051を除く
その他	0	211,797	211,797	
3. 大会運営・使役	1,765,000	1,238,022	-526,978	コロナによる大会中止による減
道馬連大会使役	900,000	627,022	-272,978	
道馬連大会フレンドリー運営	540,000	403,000	-137,000	
北大主催大会運営経費	325,000	178,000	-147,000	
その他	0	30,000	30,000	
4. 補助金	780,000	1,597,335	817,335	
道馬連補助	40,000	33,600	-6,400	
日馬連補助	500,000	1,218,500	718,500	飼育助成金による増
体育会補助	240,000	345,235	105,235	
5. 寄附金等収入	0	1,710,053	1,710,053	内訳を注1に別記
6. その他収入	50,000	271,085	221,085	内訳を注2に別記
当期収入合計（A）	7,475,000	9,780,329	2,305,329	

項　　目	予算	2020年度決算	増　減	備　　考
Ⅱ．支出の部			正は支出増	
1. 馬匹	3,300,000	3,180,310	−119,690	
装蹄	640,000	650,980	10,980	
飼料	1,360,000	1,392,998	32,998	
乾草	800,000	399,020	−400,980	
敷料	120,000	433,500	313,500	
薬品治療費	360,000	283,676	−76,324	
その他	20,000	20,136	136	
2. 大会	3,160,000	1,753,674	−1,406,326	コロナによる大会中止による支出減
輸送費	1,500,000	991,925	−508,075	
大会参加費	1,260,000	236,695	−1,023,305	
大会参加・遠征補助	400,000	200,200	−199,800	
北大主催大会運営経費		324,854	324,854	決算時新規計上項目。未払い金¥29,000を除く
3. 馬具備品消耗品費	360,000	266,227	−93,773	
馬具・馬備	60,000	111,727	51,727	フロンティア基金購入分¥97,497を含む
砂代	150,000	0	−150,000	大学負担分のみ砂入れ
備品	70,000	76,944	6,944	
ハローがけ	50,000	71,841	21,841	
その他	30,000	5,715	−24,285	
4. 登録費	335,000	264,080	−70,920	
全日本学生会費	89,000	142,440	53,440	
日馬連登録費	182,000	20,220	−161,780	
北日本学生会費	15,000	41,200	26,200	
道馬連会費	49,000	60,220	11,220	
5. その他	1,320,000	1,085,706	−234,294	
レンタカー代	495,000	607,310	112,310	値上がりによる
交通費	380,000	305,710	−74,290	
通信費・出張・その他諸雑費	150,000	172,686	22,686	
予備費	295,000	0	−295,000	
当期支出合計（B）	8,475,000	6,549,997	−1,925,003	
当期収支差額（A)−(B)	−1,000,000	3,230,332	4,230,332	
前期繰越金	2,948,908	2,948,908	0	
次期繰越金	1,948,908	6,179,240	4,230,332	

注1：寄附金等収入の内訳

後援会からの全日学補助	1,000,000
道馬連からの臨時補助金	600,000
フロンティア基金より	97,497
その他，少額寄付	12,556
合計	1,710,053

注2：その他収入の内訳

令和元年度学生支援課学生活動助成金	95,000	（2019年大会成績分）
長内さん乾草立替購入分	38,000	
その他	138,085	（不明金¥55,253を含む）
合計	271,085	

預金（注3）	6,121,979
現金	57,261
計	6,179,240

注3：預金内訳（2020/12/28時点）

北洋銀行	3,296,124
ゆうちょ銀行	2,825,855
合計	6,121,979

◆2020年度戦績◆

北海道夏季馬術大会
於：ノーザンホースパーク　7/25～7/26

LA part1

				減点	タイム
1位	発田愛美	ジュリー	ノーザンホースパーク	0	66.98
2位	鈴木重雄	リベレーター	モモセライディングファー	4	64.63
3位	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	4	74.28
6位	田中沙季	北稜	北海道大学(3)	9	94.02
落馬E	田中沙季	北琉	北海道大学(3)		

LB part1

				減点	タイム
1位	森下由香	ゼンノエルブルース	モモセライディングファー	0	58.28
2位	筒井龍伸	ラベンダー	ノーザンファーム	0	59.78
3位	三津谷篤人	コーネル	ノーザンファーム	0	60.03
12位	植田咲喜	北暁	北海道大学(2)	5	68.83
14位	田中沙季	北騅	北海道大学(4)	5	83.49

LC part1

				減点	タイム
1位	吉田侑平	シャイン	ノーザンファーム	0	51.58
2位	若林壮真	北汐	北海道大学(2)	0	60.12
3位	矢島綾子	オーバーザリミッツ	早来エクワインファーム	0	60.83
13位	吉村匡平	北鷹	北海道大学(2)	4	63.58
14位	坂本信仁	北琉	北海道大学(2)	4	65.93
2反E	井上芽依	北汐	北海道大学(2)		

ステップアップジャンピング

				減点	タイム
1位	上村駿介	スズカリバー	モモセライディングファー	0	52.98
2位	向野文子	オーバーザリミッツ	早来エクワインファーム	0	57.48
3位	砂崎壱心	アトランティスZ	静内乗馬スポーツ少年団	0	58.28
5位	武井陸	北騅	北海道大学(2)	1	65.28

LA part2

				減点	タイム
1位	村上恵祐	コステリッチ	ほくせい乗馬クラブ	0	61.78
2位	鈴木重雄	リベレーター	モモセライディングファー	0	67.03
3位	渡邊麗美	サーモピレー	社台ファーム	4	66.53
6位	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	4	71.83
2反E	田中沙季	北騅	北海道大学(3)		
落馬E	坂本信仁	北琉	北海道大学(2)		

MD part2

				減点	タイム
1位	鈴木亜依	リベレーター	モモセライディングファー	4	64.03
2位	惣田雄一	ブルービーム	JRA日高育成牧場	4	66.43
3位	発田愛美	ジュリー	ノーザンホースパーク	4	67.68
4位	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	12	71.48

LB part2

				減点	タイム
1位	本ひかり	アドニス	ノーザンファーム	0	53.43
2位	筒井龍伸	ラベンダー	ノーザンファーム	0	57.38
3位	織田紘樹	フェットゥデメゾン	ノーザンホースパーク	0	58.78
7位	田中沙季	北騅	北海道大学(3)	4	60.78

LC part2

				減点	タイム
1位	百瀬利来	レッドルドラ	モモセライディングファー	0	53.58
2位	林優	フランボワーズ	ノーザンホースパーク	0	56.63
3位	藤本哲也	サフラン	ほくせい乗馬クラブ	0	61.43
2反E	井上芽依	北汐	北海道大学(2)		

第45回北海道馬術大会
於：ノーザンホースパーク　8/22～8/23

LA part1				減点	タイム
1位	中垣彩也加	エックスマーク	真駒内乗馬クラブ	0	64.58
2位	百瀬利宏	ゼンノエルブルース	モモセライディングファー	0	72.28
3位	村下文兵	オーバーザリミッツ	早来エクワインファーム	0	73.43
2反E	田中沙季	北騅	北海道大学(3)		
OP	田中沙季	北騅	北海道大学(3)	5	79.38

LB part1				減点	タイム
1位	村上陽子	デリシャス	ほくせい乗馬クラブ	0	54.88
2位	長瀬萌々子	エックスマーク	真駒内乗馬クラブ	0	56.28
3位	三津谷篤人	コーネル	ノーザンファーム	0	59.47
6位	坂本信仁	北琉	北海道大学(2)	0	65.08
12位	若林壮真	北汐	北海道大学(2)	8	73.48
13位	植田咲喜	北汐	北海道大学(2)	10	78.08
15位	井上芽依	北琉	北海道大学(2)	11	84.27
2反E	山中竜馬	北鷹	北海道大学(2)		

LC part1				減点	タイム
1位	吉田修平	ラッセル	ノーザンファーム	0	48.63
2位	富永翔	アドニス	ノーザンファーム	0	53.13
3位	伊藤祥子	ハニーベリー	ノーザンファーム	0	57.63
5位	植田咲喜	北騅	北海道大学(2)	0	67.23
14位	武井陸	北響	北海道大学(2)	7	83.43

ステップアップジャンピング				減点	タイム
1位	成田大祥	シャイン	ノーザンファーム	0	45.73
2位	元脇耕太	ヴィーナス	ノーザンファーム	0	48.03
3位	西川輝	サクラホウジュ	北海道静内農業高等学校	0	57.38
6位	吉村匡平	北陽	北海道大学(2)	0	58.03
7位	宮川寛希	北陽	北海道大学(4)	0	63.53

LA part2				減点	タイム
1位	村上陽子	デリシャス	ほくせい乗馬クラブ	0	62.73
2位	小峰壱慶	パンジー	ノーザンファーム	0	69.73
3位	三津谷篤人	コーネル	ノーザンファーム	4	59.08
落馬E	坂本信仁	北琉	北海道大学(2)		

A2 part2				最終得点率
1位	西田みこと	フリッカー	北広島乗馬クラブ	57.738
2位	若生五月	タガノアシュラ	モモセライディングファー	57.381
3位	宮竹秀一朗	フリッカー	北広島乗馬クラブ	57.262
5位	武井陸	北響	北海道大学(2)	54.881
7位	吉村匡平	北陽	北海道大学(2)	50.476

第56回北日本学生馬術大会
於：北海道大学　8/27～9/1

学生賞典障害飛越競技				減点
1位	小野瀬北馬	柏奏	帯広畜産大学	30
2位	菊谷美咲	雪嵐	北里大学	57
3位	岡本優	柏狼	帯広畜産大学	64
4位	田中沙季	北稜	北海道大学(3)	27
E	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	100

学生賞典総合馬術競技

				減点
1位	瀬之口小夏	マニアックスター	帯広畜産大学	0
1位	田神優香	柏陽	帯広畜産大学	0
1位	大山日和	柏蓮	帯広畜産大学	0
1位	岡本優	柏狼	帯広畜産大学	0
5位	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	20
E	田中沙季	北騅	北海道大学(3)	

MD

				減点
1位	菊谷美咲	雪嵐	北里大学	57
2位	須藤みお	ボン・ダ・ジョー	酪農学園大学	80
3位	千葉渓太郎	雪凪	北里大学	105
5位	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	120
E	植田咲喜	北汐	北海道大学(2)	150
E	武井陸	北響	北海道大学(2)	150

第93回北日本学生馬術選手権大会
於:北海道大学　9/13～9/15

				最終得点
1位	小野瀬北馬	プレスト	帯広畜産大学	116.842
2位	岡本優	プレスト	帯広畜産大学	115.526
3位	宮川寛希	北鷹	北海道大学(4)	114.737

第57回北日本学生馬術女子選手権大会
於：北海道大学　9/13～9/15

				最終得点
1位	田神優香	柏陽	帯広畜産大学	137.105
2位	安田美里	柏陽	帯広畜産大学	124.474
3位	田中沙季	北汐	北海道大学(3)	116.053

第42回北海道地区乗馬大会
於：ノーザンホースパーク　10/3～10/4

MD

				減点	タイム
1位	橋本雄太	一休	ノーザンファーム	0	71.28
2位	吉田俊介	アブサントデュロワー	ノーザンファーム	0	73.63
3位	中村知世	カロリーヌG	早来エクワインファーム	0	76.83
2反E	田中沙季	北陵	北海道大学(3)		
2反E	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)		

LA

				減点	タイム
1位	田神優香	柏陽	帯広畜産大学	0	72.23
2位	津田みや	インシ―ウィンシ―	ノーザンファーム	0	67.63
3位	村上陽子	デリシャス	札幌乗馬倶楽部	0	69.48
12位	田中沙季	北騅	北海道大学(3)	12	94.38
13位	坂本信仁	北琉	北海道大学(2)	15	87.48
2反E	植田咲喜	北暁	北海道大学(2)		

LB

				減点	タイム
1位	本ひかり	アドニス	ノーザンファーム	0	52.18
2位	伊藤祥子	ハニーベリー	ノーザンファーム	0	56.58
3位	津田あいみ	ビッグレッド	ノーザンファーム	0	57.23
2反E	若林壮真	北琉	北海道大学(2)		
落馬E	武井陸	北鷹	北海道大学(2)		

60cmクラス

				減点	タイム
1位	米崎大亮	シャイン	ノーザンファーム	0	49.13
2位	成田大祥	カプチーノ	ノーザンファーム	0	52.72
3位	金山幹弥	ラ・ヴァレ	ノーザンファーム	0	55.28
11位	井上芽依	北騅	北海道大学(2)	0	71.65

エンジョイスラローム

				タイム
1位	津田由佳梨	フリッカー	北広島乗馬クラブ	69.30
2位	土田真南海	北騅	北海道大学(1)	67.90
3位	谷津江里	コスモス	北広島乗馬クラブ	65.37
8位	西田康晟	北陽	北海道大学(1)	83.63
14位	高橋知里	北鷹	北海道大学(1)	150.87

A2

				最終得点率
1位	畠山礼	ティムタム	トアステーブル	62.024
2位	二葉友利江	ウエルズ	ほくせい乗馬クラブ	61.429
3位	城早苗	コンコルディア	北広島乗馬クラブ	60.357
13位	井上芽依	北鷹	北海道大学(2)	50.238

ほくだいほーすしょー
於：北海道大学　10/11

100cmクラス障害飛越競技

				減点	タイム
1位	津田みや	インシ―ウィンシ―	早来エクワインファーム	0	58.38
2位	津田みや	ビッグレッド	早来エクワインファーム	0	60.43
3位	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	11	78.55
落馬E	山中竜馬	北鷹	北海道大学(2)		
落馬E	植田咲喜	北暁	北海道大学(2)		

110cmクラス障害飛越競技

				減点	タイム
1位	津田みや	インシ―ウィンシ―	早来エクワインファーム	8	60.46
落馬E	坂本信仁	北琉	北海道大学(2)		

80cmクラス障害飛越競技

				減点	タイム
1位	若林壮真	北琉	北海道大学(2)	0	53.23
2位	屋方梨子	レタラカリンパ	光星高校	0	57.13
3位	稲田遥	ゲームフェイス	光星高校	0	57.22
8位	武井陸	北鷹	北海道大学(2)	0	60.14
10位	山中竜馬	北陽	北海道大学(2)	0	62.44
12位	山中竜馬	北鷹	北海道大学(2)	0	63.10
15位	坂本信仁	北琉	北海道大学(2)	1	68.82
22位	井上芽依	北響	北海道大学(2)	5	70.79
落馬E	植田咲喜	北汐			

ジムカーナ

				タイム
1位	水木優之介	北響	北海道大学(1)	70.16
2位	西田康晟	北陽	北海道大学(1)	85.30
3位	小久保奈於	北汐	北海道大学(1)	103.39

全日本学生馬術大会
於:山梨県馬術競技場 11/1～11/3

学生賞典障害馬術競技大会

				合計減点	合計タイム
1位	永合更良々	千駿	関西大学	0	131.18
2位	山下大輝	稲嵐	早稲田大学	4	125.04
3位	名倉賢人	桜望	日本大学	4	128.82
37位	田中沙季	北稜	北海道大学(3)	18	163.49

学生賞典総合馬術競技大会

				馬場減点	クロス減点	障害タイム	障害総減点	減点合計
1位	楠本將斗	桜空	日本大学	26	0	64.45	0	26
2位	名倉賢人	桜望	日本大学	28.2	0	59.63	0	28.2
3位	瀬川裕哉	桜恋	日本大学	30.3	0	61.06	0	30.3
46位	宮川寛希	北暁	北海道大学(4)	53.7	121.6	62.18	0	175.3
落馬E	田中沙希	北騅	北海道大学(3)	59.7	落馬E			

MD障害馬術競技

				タイム	総減点
1位	原田尚青	ヴェラ	京都産業大学	55.99	0
2位	小林和貴	月悠	関西学院大学	57.93	0
3位	小野瀬北馬	柏奏	帯広畜産大学	60.99	0
10位	植田咲喜	北暁	北海道大学(2)	67.3	4

調教報告

◆北雛号（アップヒルティガー）◆

サラ　セン　芦毛
生年月日　2008年3月10日
アメリカ
父 Unbridled's Song
母 King Shooting Star
入厩日　2012年9月15日

田中　沙季

昨年に引き続きアヒルを担当させてもらいました。昨シーズンは北日出場で終わってしまっていたので、今年は全日本出場を目標に練習してきました。

まず、馬体面に関して述べます。

アヒルは爪がもろく、昨年は裂蹄や繰り返す落鉄に悩まされてきましたが、今年は調子が良くしっかり運動することができました。工夫した点としては、冬の間もビオチンを入れること、馬房にゴムマットを敷くこと、蹄油は爪の乾燥している日のみ塗ることなどです。基本的に健康な馬なので、他にも大きなトラブルはなくシーズンを終えることができました。

一方、騎乗面では課題がたくさん見つかり、苦戦した1年でした。特に、経路走行中に暴走して障害を切ることが多く、かといって手網で抑えすぎても切ってしまうので、脚を使いながらスピードをコントロールするのがなかなか出来ませんでした。普段は半減脚を使う練習、一定のペースで低めの障害を飛ぶ練習、常歩飛越などを行いました。また、内方姿勢を意識しすぎると真直性が無くなり肩が張ってしまうので、馬体をまっすぐにした回転運動を行いました。試合ではギャグビットを使い、外方回転を意識して、障害前の脚をしっかり使うようにした結果、コントロールが改善してシーズン終盤の試合では良い走行ができたと思います。

次に、全日についてです。

まず調教審査ですが、まともに経路を回ることができませんでした。北大ではある程度回れるようになっていたのですが、本番では後半になるにつれて馬の緊張が大きくなり抑えきれませんでした。アヒルは以前から馬場については半分諦められてきていたので、私もそれに甘えて仕方ないと考えていました。しかしそれは馬の可能性を潰してしまうことになるし、馬はまだまだ成長していけるはずなので、人が諦めてはいけないと気づきました。もっと普段の大会から馬場に出場して経験を積み、低いレベルからコツコツと練習していくべきだったと思います。

次にクロスカントリーです。コース内の走路エリアで走られてしまい、直後の小さい回転で曲がりきれず、人馬転して しまいました。そこまでは良いペースで回れていたのに、走られた時の対応を瞬時に判断できませんでした。しかし怯むこともなく障害を飛んでくれていたので、アヒルの能力の高さを実感しました。

全体として、人が馬をコントロールできていないことを痛感した1年でした。アヒルはとても優秀で、今後北大のエースとしてもっと活躍できるはずなので、残り1年かけて乗り手の育成と馬のトレーニングを進めたいと思います。

田中姉と北騅号 全日(クロスカントリー)にて ©UNIVAS

◆北鷹号（シュガーシャック）◆

サラ　セン　栗毛
生年月日　2009年2月24日
北海道勇払郡安平町
父アドマイヤドン
母メイプルシロップ
入厩日　2014年6月14日

山中　竜馬

私は前担当者の羽二生姉が引退した後に北鷹を担当させていただきました。羽二生姉は引退後修行に行ったこともあり、ほぼ1からシュガーと関係性を作ることになりました。

最初かつ長い間、上手くいかなかったのはコンタクトを取る難しさです。コンタクトを取らない間は、動くもののシュガーと意思疎通がうまくいかず、手綱を取ろうとすると首を硬直させて前に出ず、とどのようにすればシュガーと関係性を作れるのか大変悩みました。まずは、引馬で人の動きに対する反応を確認したり、調馬索を空で回して声に対する反応を確認したりと初歩的なところから始めました。始めのころは引馬時に草を勝手に食べられることや、索は内に入られて回すことすらできなかったものの、徐々に引馬も索もある程度出来るまでに関係性を築けました。しかしながら、騎乗中にコンタクトを取るのはシーズン始まっても偶にしか上手くいきませんでした。輪乗りの中で、内方脚と外方手綱で受けるようにして、最後の方でやっとコンタクトをとれる感覚が分かったような気がします。

もちろんそのことだけやってもいけないので、同時並行で障害飛越の練習も行っていきました。既に高さのある障害を飛ばせることは引き継ぎ前で出来ていたので、いかにしてその能力を引き出すことができるかが課題でした。飛んでくれはするものの、元気よく入ることや、入る直線前で横に逃げられないことが目標となりました。そこでも課題になったのはコンタクトをとる事でした。どうしても回転で膨らみがちになり、コンタクトが取れてないために対応が遅れることが多々ありました。直線が長いと避けられる傾向が強くなっていたので、輪乗り飛越で直線が短い中でも飛べるのを

練習し、ミニコースでコース取りを考えることである程度直線前で逃げられることは防げたのではないかと思います。

結局、終始初歩的なところの改善が上手くいかず、競技会で完走できたのは80㎝クラス、100㎝クラスは落馬失権でした。前シーズンの力を発揮できず、今シーズンを終える形になってしまいました。

シュガーに対して成長を促すことができなかったのに、シュガーからは色んなことを教えてもらった気がします。本当はそのまま次シーズンも担当するはずでしたが、選手メンバーの変更もあり、今シーズンのみの担当となりました。次の担当者とコミュニケーションをとり、シュガーがよりよい成績を残せるよう努力してまいります。

その影響で、野外馴致は私でなく武井が行ったので、野外馴致の報告は私からではなく、武井の方からしてもらいます。

◇

武井　陸

シュガーの野外馴致は私、武井のほうからさせていただきます。

シュガーは今北大にいる馬でもっとも古株の存在で、ノーザンの野外においては致命的に苦手としているものもないため、基本的に野外での反抗は人のほうに問題があるという意識で騎乗しました。計3回の野外馴致で一通りの野外障害は飛ぶことができよかったと感じる一方、一度反抗したら、鞭で追っても脚を入れてもびくともしない場面がありました。障害は怖くないものとシュガーが感じるような馴致をノーザンで行っていけるよう、正しいアプローチと正確な踏み切りに重点をおいて、そしてなるべく毎日水豪障害に入って水へより慣れるよう秋の北大での練習を行いました。

今後の練習も、まずは人の野外での経験を増やし、馴致で見つけた課題を北大で解決するというサイクルを確立すること、そして最後には来年の北日での総合完走を目標にして進めていきます。そのためにはまず私自身の技術の向上は必要不可欠であると感じています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

◆北響号（カノンコード）◆

サラ　セン　芦毛
生年月日　2006年2月25日
北海道勇払郡早来町
父クロフネ
母ポップス
入厩日　2015年4月7日

武井　陸

カノンコード（以降カノン）のチーフに就かせていただいたのは代替わり直後の9月からでした。

カノンは左後肢の球節に大きな腫瘍があり、人数が増えてきた今後においては少しでも長く北大にいてもらいたいという思いから、この代替わりを区切りにクロスカントリーを引退し、下級生の練習をメインとしながら MD クラスを安定して帰ってこられるよう調教していくという方針で練習してきました。とはいえ、1年目でようやく右と左がわかってきたような私には調教を自分で考えてということは難しく、先代のチーフであり、当時の主将であった宮川兄や春先から夏にかけて札幌に戻ってこられていた OB の菅野兄に指導・助言をいただきながら調教を進めていきました。

代替わり当初のカノンコードの課題としては、「回転で内側に倒れこんでしまう」「前にのめりこんでしまう」といったものが挙げられました。そのため、日々の練習では回転時でも人の重心が内に倒れないようにしつつ内側の脚で馬体の傾きをガードする、前をしっかり持って前にのめりこまないようにすることを主に意識して乗っていました。カノンは脚反応が北大馬の中では比較的よく、常歩からの駆歩発進が両手前ともに癖がなく障害に対してもある程度の前進気勢をもってむかっていくことから、シーズンオフまでは下級生の部班や80㎝までの障害飛越がおもな練習内容でした。試合でも反抗なしの成績を収めてくれており、1年生に経験を積ませるという役割を大きく果たしてくれていたと思います。

シーズンオフになり雪が積もってからは上記の練習内容に加えて竹箒のような60㎝以下の小さな野外障害の飛越も定期的に行い、1年の野外デビューに向けての練習も行いました。シーズンオフということもあって、この時期はオーバーワークを防ぎつ

つ、積もった雪の上で駈歩を行うといったような馬の筋力トレーニングも行うよう意識していました。結果としては若干痩せ気味ではあったものの、歩様が悪くて馬休という日はほとんどなしで冬を越すことができました。

春先からは新2年生のレベルアップのため、徐々に練習で飛越する障害の高さを上げていきました。この練習の中では高さが上がるにつれて、前につっかかりすぎて障害に無理な体勢でアプローチしてしまい、結果的に反抗される場面が多々ありました。これを防ぐために両方の脚で左右への逃避を抑えつつ手綱をしっかりもって首をノーマルの位置でキープした状態でアプローチをかける練習を行っていきました。最初の飛越で良くないアプローチをかけなければ、その後の飛越は反抗の素振りをあまり出さずに障害にむかってくれるところがカノンの良いところだと感じました。しかし、今シーズンは夏ごろまで大会が開催されなかったので、実際の大会ではどうなのかを実際に感じられずにいました。

5月ごろからは定期的に実戦形式の経路練習を行っていきました。60㎝から始まり70、80と徐々に高さを上げていきました。しかしこの練習のなかで、90㎝の経路を走行中に最後のトリプル障害で間の歩幅が合わず、3反抗してしまった時がありました。これが一時的なトラウマになってしまったのか、6月上旬ごろには連続障害で反抗を示す場面が目立ちました。さらにほぼ同じ時期に肢の状態が悪化し、歩様が悪くしばらく馬休にする日が出てしまいました。そのため、この先を考慮して歩様がよくなるまで十分休んでもらって回復後にそれほど高さのないコンビネーションから始めて、時折単発で100㎝程度の障害を飛ぶという練習計画を立てました。幸いにも2週間ほどで歩様も回復したことから練習を再開しました。コンビネーションではただ勢いで障害に入っていくのではなく、十分な元気の良さを保った上でゆったりとしたリズムでアプローチをかけ、障害間で歩幅が合わず馬に恐怖を与えないようにすることを最も意識しました。こちらの方も、連続障害に対する反抗が減っていくまでにそこまで時間はかからず、早い段階で経路練習に復帰することができました。

7月下旬から大会が開催されましたが、カノンは北大の中では十分ノーザンでの大会に参加している馬であり、ほかの馬の馴致の兼ね合いもあってノーザンでの大会に参加するのは8/22,23の道大会のみとなりました。自身の実力不足で1反抗がありましたが、不安に思っていた大会でのカノンは、準備馬場やアリーナで手が付けられないほどに興奮することがなく、そこはよかったと思っています。

北日当日は1年の区切りとして実際の MD と同じ経路を走行させていただける予定でしたが、当日に酷い跛行がみられたため中止としました。1年間の成果を発揮できず残念でしたが人馬ともにまだこれからがあるので、今後に向けて精進していきたいと思っています。

カノンは先述の通り左後肢の球節に大きな腫瘍があるため、今後もそれと向き合っていくことになると思います。一年前と比較すると右前肢の球節上部にも若干の腫れもでてきています。1年生の練習においても欠かせない馬であることから、練習メインのポジションといえど、上級生が乗ってしっかり大きく動かしていくことは続けて

いこうと思っています。最後になりましたが、菅野兄、宮川兄を始め、指導・助言をくださった皆様には本当にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◆北汐号（タイダルベイスン）◆

サラ　セン　栗毛
生年月日　2010年3月6日
北海道日高郡新ひだか町
父アグネスタキオン
母ワシントンシティ
入厩日　2015年7月9日

植田　咲喜

はじめに、今シーズンのベイスンの調教や、指導をしてくださった江口さんをはじめ、お世話になったOBの方々、先輩方に心より感謝いたします。

ベイスンのチーフは1年の冬頃から担当させていただいています。昨年は主に一年生が乗る練習馬の役割で、障害は60cmのコースと単発で80cmぐらいまでしか飛んでいませんでした。しかし、ベイスンはMDで全日に出たこともあるので、今年は2年の若林か植田が乗って北日に出ることを目標にしました。

6月までは大会がなかったので、月一回程度の部内戦でいい走行をすることを目標に、土日は江口さんに指導して頂きました。

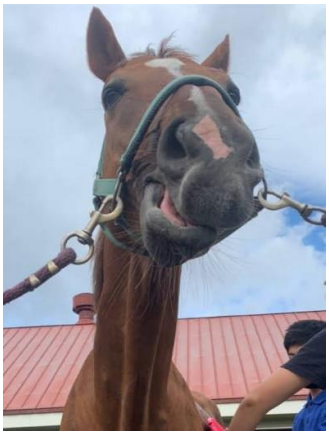
7,8月はノーザンホースパークの大会に出場し、7月の夏季大会ではLC、8月の道大会ではLBに出場しました。また、同時に野外馴致もほかの馬と一緒に行いました。7月までは試合前の下乗りや野外馴致で江口さんに騎乗してもらっていましたが、8月からは基本的に現役が騎乗して指導してもらいました。しかし、現役だけではベイスンの障害に対する前向きな気持ちを作ってあげることができず、定期的に江口さんに障害を飛んでもらったり、馬のバランスを改善してもらったりしました。江口さんが乗った後は野外障害や物が入った障害でも臆せず飛んでくれました。ただ、日にちが開くとまた障害を嫌がってしまうようになるので、箒を刺したブラシ障害や、かまぼこ型の障害、北大の水壕などを毎日少しずつコンスタントに飛んで障害をもの見しないように慣らしました。

9月後半から歩様が悪くなり、10月中頃まで満足に練習できませんでした。そのため、9月末の岩谷さんクリニックと10月の地区大会は出場できませんでした。症状は両後肢に熱感があり、跛行していました。しばらく休むとマシになるが、運動するとすぐに悪化する状態で、装蹄師の国藤さんに相談すると、蹄が削れ過ぎているのではないかと言われ、それまで裸蹄だった両後肢を装蹄してもらいました。そのおかげで歩様は回復し、いままでの丈夫なベイスンに戻ってくれました。ベイスンは爪が伸びる

のがとても速いため、去年までの練習では爪が削れるよりも伸びる方が速かったが、今年から本格的な障害練習をしたため、蹄が削れるのが速かったのだろうと思います。来シーズンからはずっと全肢装蹄してもらおうと思います。歩様が良くなったので、11月の部内試合では90ｃｍの経路を減点0で回ることができました。しかし、今シーズン中に100ｃｍをかえってくるという目標は来年に持ち越しとなってしまいました。

また、シーズン中は鞍傷もできてしまい、原因として背中のキ甲まわりの筋肉がないことが考えられたので、運動ができない間に速歩になりそうなとても元気のいい常歩で長時間運動するバイタルウォークをして筋肉をつけることに重点を置きました。

ここからはこの部報を見てくれている後輩に向けて鞍傷になったときの対処について記したいと思います。鞍傷は毎日チェックして早めに発見することと、鞍をのせるときにしっかり傷を守ってあげることが大切です。ベイスンの鞍傷に有効だったのは、鞍をのせる前にワセリンをたっぷり塗って上からビニールを被せました。そして、手入れの時にイサロパンをかけました。でも、本当は合った鞍を使ったり、筋肉をつけて鞍傷を作らないことが大切です。



この1年を通して、ベイスンの課題は前重心になることと、障害への前向きな姿勢を作ることでした。後者は大会に出場したり、北大に馬場で馴致することで改善できたと思います。しかし、前者と、加えて左の肩を張ることは来シーズン以降にハミをかえるなど工夫して改善していこうと思います。

◆北稜号（ダノンアンチョ）◆

サラ　セン　芦毛
生年月日　2007年2月18日
北海道勇払郡安平町
父 Unbridled's Song
母アンチョ
入厩日　2015年12月4日

田中　沙季

アンチョに本格的に乗り始めたのは春ごろからです。能力がとても高いのはわかっていましたが、昨シーズンの様子から気持ちの面に大きな問題があるようだったので、今年は高いレベルを求めすぎず、確実に経路を完走することを目標にしていました。

まず馬体に関しては、背中の筋肉が落ちており夏頃から鞍傷に悩まされました。北日があったので馬休にできず、色々と試行錯誤しながら運動を続けました。最終的に良かったと思うのは、傷にタフロックを塗り、透明ゲル→穴あきゼッケン→ボア→鞍と乗せる方法です。今後も鞍位置やき甲あげには気を使い、日頃から背中を使わせる運動をして筋肉をつけるようにしていきたいと思います。

また騎乗面では気持ちが切れると全く飛ばなくなってしまう問題に対して、最初は人が飛ばせないといけないと思っていました。しかし色々な人にアドバイスを貰う中で、人が頑張らなくても馬が飛んでくれるように調教する必要があると気づきました。

そこからは、あえて飛びにくい距離のコンビネーションの中で馬に踏み切りを考えさせる練習や、常歩飛越、本番で集中力が続くように10個以上の障害を続けて飛ぶ練習などを行いました。

結果としては全日本の二走を総減点18、37/62位で完走することができました。北日が北大の馬場でのビデオ撮影で行われたこと、山梨でアンチョにスイッチが入ってくれたこと、コロナの影響で経路が易しめだったことなど、すごく運が良かったお陰だったと思います。10月の大会の MD では全く飛ばない状態が再発してしまっていたので、完全に直せたとは言えません。今後も馬の気持ちを大切にしながら、誰が乗っても経路を回ってこれるエース馬を目指してトレーニングをしていきたいと思います。

田中姉と北稜号　全日(二回走行)にて　©UNIVAS

◆北暁号（ノーステア）◆

サラ　セン　栗毛
生年月日　2008年3月5日
北海道勇払郡安平町
父ゼンノロブロイ
母ムガール
入厩日　2015年12月4日

宮川　寛希

以下に、ノーステアに乗るに当たって今シーズン意識していたことを記す。
ノーステアの課題
・左脚の反応が悪い。
・右に曲がらない。
・障害飛越の際に、駈歩がバラバラになってしまう。
・動かすまでに時間がかかる、無理やりやらないと動かせない時がある。
・頭を上にあげず、コンタクトをとったハミを受けた運動。横運動。

基本の練習

ノーステア自体が、癖や課題はあるがある程度完成された馬だったので、馬の持っている良いところを壊さず、なおかつ人と馬とのコミュニケーション、反応の確認といったところを大事にし、以下のことを意識して今シーズン取り組んだ。

フラットワーク

フラットワークの一番の目的は、馬が固くならない中で、どれだけ動かせるかというところにあった。その中で、大切なことは前任の山川兄とも確認していたが、無理に乱暴にするくらいなら、速歩までで運動を終えてもいいということだ。もちろん馬が動いてくれれば、もしくは動きやすい日であれば多少乱暴でもうまく運動ができるが、そのようなラッキーに期待するのではなく、基本的なところの確認をメインにその日できることをきちんとおこなうよう運動していった。

常歩

乗ったらまず、手綱を一番長いところで持った状態で、常歩。脚への反応で前に出ることが確認出来たら、この反応が鈍かったら、急がずもう少し時間をかけて行う。

停止した状態で頭を下げる。そして、そのままの状態で常歩。この常歩は、頭を上げないことを最優先でゆっくり丁寧に脚への反応を確かめる。ここまで、スムーズにそして元気のある中で常歩できたら、そのままコンタクトを持ったまま速歩に進む。でも、コンタクトの取り方や脚の使い方が不十分で、調子のいい日や手を横に開かないとなかなかできないことが多い。

速歩

ここでは、脚への反応を最優先におこなう。脚への反応が確かめられたら、両方の手綱を一つ二つ短いところで持って、前に出ることを確認しながら手は開かず肘を曲げて、き甲の上あたりに置いて軽速歩する。その中で、外方手綱はしっかり持って、内方手綱を開いたり、元に戻したりして、コンタクト、ハミへの食いつきを求めていく。この際、食いつきがあったら、内方手綱を少し楽にするのを忘れずに手綱を中指以下握ったり軽く握ったりを繰り返してみるのも有効。ここまで15分以内くらいで確認したい。

右手前の方が受けやすいが、回転が難しく、どうしてもバラバラになってしまうため、最近は左手前からおこなっている。

駈歩

ここまである程度のコンタクトが確認出来たら、そのコンタクトを維持したまま駈歩に入る。だけど、できる日とできない日があるので見極めながら。

できない日は、一度駈歩をコンタクトを求めず普通に出してみてその中で脚への反応の確認をおこなう。その際隅角で曲がらないからといって手綱を開きっぱなしにせず、使ったら戻す、ということを繰り返していきたい。

基本左手前から行う。馬自体は右手前の方が出やすいが、回転しにくいため左手前でやる。最初の蹄跡1,2周くらいは逆手前で回転してもいいが、できるだけ正しい手前で、回転していきたい。めげずに、イライラせず、できたらラッキーくらいのつもりで乗ってもらいたい。

横木通過

速歩は1.3~1.35m、駈歩は3m、3.5m をやる。速歩は、しっかりコンタクトをとった中で。駈歩は、元気の良さが足りないことがないように。あと踏切を感じられるように、合わせられるように、なりたいのでしっかり3歩前を数える。

・フライングチェンジ

コンタクトをとれた駈歩ができた時は、いつも2,3回は練習する。元気良くないとできない。埒に向かってやっていき、手前を変えたい2歩前には姿勢を入れ替え、替えたい時の脚が地面に着地して、浮き上がる前に替えたい方の手前で脚を使う。

障害

きちんと動かせる時にやる。動かせないままやると、馬の自信喪失につながりかねない。

・バウンス

間3m で3連続くらい。コンタクトをとった中でやっていく。これは、馬が連続障害の中でもバラバラにならないようにするため。

・高い障害のコンビネーション

3m　　3m　　3m

（最後は100までなら3m,110なら3.15m くらい,120なら3.3m、一番目と三番目は横木）

速すぎない、上に弾むような元気のいい駈歩で踏切を合わせて入る。最後はオクサーにもしていい。

・単発

13m に踏切を置いておこなう。

・ダブル障害

100なら間1歩7.5、2歩10.5

苦手なので、元気のいい駈歩ができた時は定期的に練習していく。

・野外障害

週の初めか終わりは外に行って走る。動かしたい日だが、動かせない時も外に行って走る。2ポイント、コンタクト意識。

障害自体は、水~土の練習で一年生が乗る前におこなう。

今シーズンを振り返って

ノーステアがシーズン明け、他の人ではあまり動かなくなったことから、今シーズン5月ごろからノーステアに乗らせていただきました。ノーステアは、前年度山川兄が

全日総合を完走しており、そのため私は今シーズンの目標を自身の「全日総合完走」と、昨年度羽二生姉が後輩達を熱心に指導してくださったことから、「2年生が全日MD を完走する」ことを目標に、上記のことを意識して取り組んでまいりました。その中で、特に意識していたことは、「反応の確認」です。下級生も試合に出場させるためには、試合で自分だけが乗ってうまくいくだけではなく、下級生でも試合で、反抗なく走行できなくてはなりません。そのため、普段の練習でも運動の内容、難しいことをやるよりも、馬が自分のいうことを聞いてくれているか、集中しているかの運動の質を重視して、基本的なフラットワークや馬場馬術的な運動を重点的にやっていきました。

今シーズン、新型コロナウイルスの影響もありシーズン最初の対外試合が7月末の夏季馬術大会となったのですが、結果は、バーを落としてしまいましたが、自身の110cm 完走と後輩の90㎝完走までできました。

7月まで、ほぼ基本的な運動だけでここまでできたこと、昨年度までよりもバーを落としてしまうようになったことから、欲を出してしまい、北日までの間より難しい障害や高い障害に挑戦するようになりました。結論としては、自分にそこまでの技術面がなく、障害への反抗が増えるようになりました。やはり、馬との関わりはできること、馬の自信を損なわない範囲で練習していかなくてはならないと実感しました。

北日では、二回走行の高さにも挑戦しましたが、ノーステアの背中をあまり使えない今の飛越では、まだ不十分で完走できず、MD の権利をとるだけにとどまりました。これらのことを反省し、全日まではフラットワーク、馬場馬術的な運動を中心に、壊れてしまった馬との関係を取り戻すことに取り組みました。その間、後輩の練習に関しましては、本番を想定して動いた馬にもっと慣れてもらうこと、総合のための野外馴致もかねて、ひたすら農場の芝生で走る練習をおこないました。

馬との関係を取り戻すための練習をおこなってまいりましたが、北日後から全日前までに、野外走行をおこなうトライアル、2回の大会においてどれも反抗があり、障害においては関係を取り戻せずにいました。だけども、フラットワークに関しては、自分がハミを受け運動できる時間も長くなり、今まで課題だった左脚への反応もよくなり手ごたえを感じていました。駈歩の質も良くなっていったことから、結果はあまり伴っていなかったものの全日直前の準備としては、かなり手ごたえを感じていました。また、全日に向けて意識していたことは、慣れていない環境への馴致です。ノーステアは、障害などの物見はしないものの、ノーザンでの試合の初日など、慣れてない環境ではあまりコントールがききませんでした。山梨での全日は彼にとって初めての場所であったため、普段の練習でも、全日直前は北大の原生林を常歩をすることも取り入れていました。これらのおかげで、全日は、今シーズンノーステアで目標としていたことに自信を持って挑戦することができました。

全日期間中は、一日に3度、短い運動をおこないできるだけ会場にならそうとしていましたが、総合の調教審査ではそれでも緊張が爆発してしまい、馬の動き自体は良かったものの自分がコントロールすることができませんでした。会場に慣らそうとす

るばかり、試合時の馬や人がたくさんいる環境での、競技のための運動を自分ができていませんでした。そのため、翌日のクロスカントリーと障害では、MD もあったので馬の体力を温存しながらも、今までにやってきた反応の確認というところだけを意識して、馬を信じ、人の気持ちをなるべく落ち着けて挑みました。そして、今までやってきたこと、馬を信じ、無事クロスカントリーも余力も、植田の MD も無事完走することができました。

全日にて 左　宮川　中央　駒田　右　植田・ノーステア

今シーズンを通して、ノーススステアはより高い障害を飛べるようにはできませんでしたが、ベストパフォーマンスを出せる状況の幅をかなり広げることができたと思います。大学から馬術を始めた2年生の植田も全日の MD を1落下のみで完走することができ、挑戦したい気持ちのある下級生には全力で挑戦させるということも達成でき、ノーステアには感謝の気持ちでいっぱいです。そして、暴れん坊なノーステアを今シーズン一緒に世話してくれた、2年生、1年生の皆さん本当にありがとうございました。来シーズンのノーステアと現役の活躍を心より応援しています。

植田姉と北暁号　全日(MD)にて　©UNIVAS

◆北琉号（ドラゴンケーニッヒ）◆

サラ　セン　黒鹿毛
生年月日　2012年2月5日
北海道勇払郡安平町
父ディープインパクト
母カリ
入厩日　2016年10月8日

坂本　信仁

大学に入ってから馬術を始めた全くの初心者だった私が、二年目にこうして調教報告を書くとは思いもしなかったので、戸惑いはありますが、初心者なりにしてきたこと、見てきたことについて、FW と障害・野外馴致についてそれぞれ時系列に沿って振り返ってみようと思います。今年度は、5月ころから練習を見ていただいていた、函館の水産馬術部 OB の菅野兄に、7月ごろから北日学のある9月末までの2～3か月間、ドラゴンのことを見ていただきました。

＜フラットワークについて＞
・雪解け後から晩春にかけて。
昨年度のドラゴンは、主に主将だった羽二生姉や、ドラゴンのチーフについていらっしゃった須藤姉、そして現主将の田中姉が乗り、運動していました。それまでもあまり簡単な馬ではありませんでしたが、春先は特に脚扶助に対して鈍く、馬の重心も前にのめり、結果としてバランスがうまく取れず、時々運動中に躓く様子も見られていました。そこでまず脚反応をよくすることを目標とし、運動しました。結果として、夏に入る前には、春先と比べて脚反応は良くなっていたようです。
・初夏から北日学期間まで
この時期は冒頭にも書いたように、水産馬術部 OB の菅野兄に見ていただきました。ドラゴンの課題である前に傾いたバランスについて、菅野兄に見ていただいてかなり改善したと思います。以前までは部班中に躓くことが見受けられていましたが、8月に入ってからはほとんど躓くこともなく運動できていました。また、バランスが起きてきたことにより、以前より駈歩で運動しやすくなったと感じました。
菅野兄に見てもらって、頭を低くして運動することにも取り組み始めました。ドラゴンは、速歩駈歩の時に頭を上げてハミを外しに来ることが多く、その結果全身を効果的に使って運動することが難しい状態でした。そこで、まずは速歩から頭を低くし

て落ち着いて運動するように意識することで、脚扶助を素直に推進へとつなげることが出来たり、より人の手の内で運動することが出来るようになっていっていました。

・北日学期間・大会シーズン終了から初冬まで

菅野兄が札幌から函館へ戻られ、ここからはいよいよ自分で考えて運動していくことが増えていきました。いきなり難しいことはできないとわかっていたので、まずは人の上達と、馬の右姿勢が硬いことを改善することを目標として運動しました。具体的には、折り返し手綱を使ってみたり、反対駈歩や肩を内へ、などを取り入れました。結果、ある程度右姿勢の改善はできたと思いますが、当然ながらこれからも継続していくことが必要だと思います。

大会シーズンが終わった事で、毎日の運動の焦点が、大会に向けたものから下級生（私含め）の練習へと移っていったように感じます。そこで、一頭当たりの乗鞍が多くなったり、その関係で一鞍当たりの時間が短くなった結果、以前よりしっかりドラゴンに乗ることが出来ていませんでした。短い時間でもできることを積み上げていくべきでしたが、「下乗りとしてとりあえず一通り動かして、乗り替わる」ことに精一杯になってしまい、結果として運動の質は今までより低くなってしまいました。

＜障害・野外馴致について＞

以前からドラゴンは障害に対して前向きで、物見して反抗することもあまりありませんでした。そのため障害の試合では、ドラゴンに助けられることが多々（もしかすると全てかもしれない）ありました。菅野兄に見ていただいて、バランスが起きた状態で運動できるようになったこともあり、さらに障害は飛びやすくなっていたと思います。また、踏切が読めない私が乗って飛越することが多かった結果、踏切が近くなり、逆に飛越時の後肢の動きが良くなったと菅野兄に教えていただいたことがありました。最終的には、単発で100㎝以上くらいの障害や、ドラム缶や長椅子といった横木以外の障害を飛ぶこともできました。

野外馴致については、昨年度に田中姉が乗ってノーザンで馴致した際、走り回って人の支配下にない状態となってしまっていました。今年度は、そもそも大会の開催が少なかったこともあり、野外馴致に行くチャンスが去年よりは少なかったようですが、その中でも菅野兄に乗って馴致していただいたり、帯広畜産大の馬と一緒に馴致に行ったりしたときは、それまでのように暴れまわるようなことはありませんでした。来年度どうなるかはまだ読めない状態ですが、馴致に行く機会があれば、人馬のスキルアップのために参加を検討していきたいと考えています。

来シーズンは、今シーズンで培ったものを殺さず、見つけた課題と向き合い、大会で無事に帰ってこられるように、頑張ります。応援よろしくお願いします。

◇

菅野　隼人

北大水産馬術部 M1の菅野隼人（かんの　はやと）です。学部3年次に本学馬術部を離れて以来，函館競馬場で活動を続けていましたが，進学した大学院の都合上，令和2年度の前期を札幌で過ごすことになり，5月～9月末までの約5ヶ月間，本学で現役部員のサポートをしていました。札幌に来るまでは，週に1，2回，朝練に顔を出す程度のつもりでいたのですが，「下級生の人数に対して上級生の人数が圧倒的に少なく，現役部員だけでは馬の調教と下級生の指導が間に合わない」という現状から，短い期間ではありましたが，ドラゴンケーニッヒ号（以下ドラゴン）の調教を担当しました。

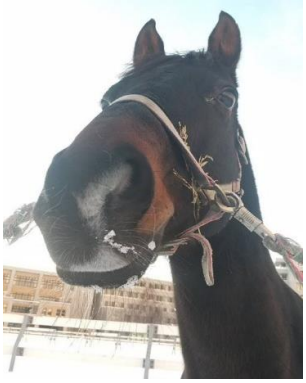
ドラゴンの調教を任された当初，現役部員のドラゴンに対する印象は良いものではありませんでした。「わがままで，扶助に反抗する」，「口向きが悪く，ハミを受けない」，「肩からはみ出して曲がらない」，「野外馴致に連れて行くと暴走する」，，，現役部員にとってドラゴンは“厄介な馬”であり，離厩候補にも挙がっていたと聞きました。もしかして外れクジを掴んでしまったのかな？とも思いましたが，ドラゴンと現役部員の手助けをするために札幌に来たのだ！と自分に言い聞かせ，この馬と正面から向き合うことにしました。

私がドラゴンに乗る際に常に心がけていたことは，シンプルな指示（扶助）です。これは，全ての新馬調教に通ずる騎乗技術だと思います。馬が抱える問題点を修正したい場合，つい，複数の問題を同時に解決しようとしたり，段階を踏まずに一度に解決しようとしたりしがちです。しかし，新馬の場合，あまり多くの指示を，強い強度で同時に求めてしまうと，馬が何を求められているのか理解できなくなり，それが，さらなる問題の悪化や，騎乗者への反抗に繋がります。特にドラゴンのような，わがままで我の強い馬はそれが顕著に現れるため，注意が必要だと思います。

また，馬の緊張の緩和と，運動に前向きな状態を維持することにも気を遣っていました。下級生がドラゴンに乗っている時に良く見かける，ハミが外れて空を向いている状態は，背中の緊張と，脚による推進が足りていないことから生じているのだと思います。背が柔軟に使えれば頭頸は勝手に伸展し，後駆からの推進が柔軟な背を通じて前に繋がれば，自然にハミを受け入れてくれるはずです。これらを達成するためには，安定した人のバランスと騎座，独立した拳が不可欠です。さらに，斜め横足や肩内，前（後）肢旋回などの運動をフラットワークに取り入れることで，馬体をほぐし，柔軟性を高めることを目指していました。

以上のように色々と偉そうなことを書きましたが，これらは全て競馬場の先生の受け売りです笑。私は現役時代，自分で調教した馬で競技会に出場した経験はありません。一頭の馬と向き合って，良い馬を作ろうとした経験は今回が初めてです。その

点では，私は現役部員と同じ立場にあった訳ですが，私にはプロの馬取扱職員から指導を受けた経験があり，それを活かした調教を試行錯誤することができました。馬の調教をする際には，より多くの選択肢を持ち，その中から，適切なものを選ぶ必要がありますが，現役部員はその選択肢を多く持っていません。ドラゴンの調教を通じて，現役部員に自分の経験や騎乗技術を還元できていたのなら，幸いです。



◆北陽号（ノガロ）◆

サラ　セン　栗毛
生年月日　2013年2月7日
北海道勇払郡安平町
父キングカメハメハ
母ムードインディゴ
入厩日　2017年9月24日

吉村　匡平

今シーズン、選手としてメインでノガロに乗らせて頂いていた二年目吉村です。行っていた調教について、手入れ面・騎乗面の二つに分けて述べます。

まず手入れ面についてですが、ノガロには近付くと噛む素振りを見せたり耳を伏せて威嚇する様子が見られます。これらを改善するために、2020年春までは裏掘りやブラシ中に彼が噛む、蹴るなどの行為を行った時は少し強めにどつく等の接し方を行っていましたが、乗馬クラブの方から「信頼関係が崩れてしまう」というアドバイスを頂き、叱るのは声だけに留めるようにしました。裏掘りの時に、なかなか前足を上げず部員の尻を噛むようなことが多いですが、その時は後ろ足を先に行うと比較的スムーズにいくことが多かったです。また、特にブラシを嫌がることが多かったので、春から夏にかけてブラシ以外にき甲や肩の辺りを、Youtube の動画を参考にしてマッサージを行うようにしていました。講習会でも講師の方が教えてくださったので、継続したほうが良いと思います。彼と接している中で、馬繋台に繋がれる事が嫌に感じているように思えたので、なるべく繋ぐ時間が短くなるような工夫を行っていました。正直彼のこれらの癖について、あまり改善が見られたとは思いませんが、継続することが大切だと思うので引き続きノガロとの関係をよく考えることが必要だと思います。

引馬については、自分は全ての動作において声の指示を付けることを意識していました。「進め」「止まれ」「速歩」などの単語を動作と合わせ、停止の時に前足だけは揃えさせるなどの点も注意し、上手くできたときは黒糖などのご褒美を上げるようにしました。これにはとても成果が見られ、しっかりと自分の音声扶助に対して反応を示してくれるようになりました。索の練習や騎乗時にも音声

扶助が役立つ時は多いと思うので、引き続き続けていった方がよいと思います。ただ、チーフ・サブともに音声扶助の統一をすることが何よりも重要になってくると思うので、使うタイミングと種類の話し合いが必要です。

続いて騎乗面についてですが、シーズン中は指導部より江口さん、山川さん、4年生より宮川兄、3年生より田中姉より主にご指導いただきました。全体を通して意識していたことは、ノガロにリラックスして運動してもらうことです。１鞍目に乗るときは、並歩・速歩・駈歩全てにおいて、ノガロと手綱でほんの少し繋がっているくらいで運動をして、ある程度動いて自分からハミに乗ってくるまで待つようにしていました。動いてきた後は、少しずつ手綱を詰めて馬の頭頸が下がった状態を維持できるように意識していました。自分の技量的にハミ受けなどは出来ませんでしたが、手綱の薬指と小指の握る強さを変化させることで、ノガロとのコンタクトを一定に保てるようにしていました。ある程度動いてきた後は、良くも悪くもハミに突っかかってくることが多かったので、夏頃は引っ張り合いになってしまうことが多かったです。抑える所、許す所のタイミングを間違えるとノガロがどんどんイライラしてきて落ち着いた運動が出来なくなってしまうので、騎乗者がしっかりと許すことを意識して乗ることが大切だと思いました。

また、競馬場バイトの時に職員の方にアドバイスを頂き、全ての脚扶助を行う前に太ももでしっかりとはさみ、脚の前の扶助を行うことを意識して乗っていました。ノガロはとても繊細で、些細なことでイライラしたり耳を伏せたりするので、これから脚を使うよという合図は彼にとっても指示が来るという準備が出来るので、とても良く作用していました。特に、下方移行の時に手綱だけだと引っ張り合いになって落ちないことが多いので、しっかりと太ももで挟んであげることで、落ち着かせることが出来ました。

夏から江口さんに指導を頂きながら馬場の練習を始めました。前述の通り、引っ張り合いになると落ち着いて運動できなくなってしまうので、いかにリラックスさせたまま運動を行うかを意識しました。手綱をずっと強く使いすぎないこと、しっかりと太ももを使うことをメインに運動のメニューを行いました。また駈歩の３ポイントにおいて1年の頃には鞍の前の方で乗ることを指導して貰いましたが、自分が思っていたよりもう少し後ろにシートすることで、勝手に駆歩が加速していくということは無くなりました。自分が正反動を上手く出来なかったのもありますが、馬場だと声も使用できないので特に下方移行が上手く行かないことが多く、そこが課題として残っています。北大で乗っている時よりも、ノーザンの試合で馬場に出場した際にテンションが高く、山川さんには人も馬も場慣れが必要だと言われました。試合中の折り合いの付け方も、練習とは感覚が違うので課題の一つです。

障害については、自分はノガロはあまり障害が好きではないように感じています。特に連続した障害が苦手で、単発なら飛べる高さでも後ろにもう一つ障害が増えると止まってしまうことが多かったです。グランドバーも本数が多いと焦ってどんどん加速していく癖が見られました。そのため、自分はノガロの障害を一からやり直したいと思い、まずはクロス・60センチ以下の垂直をアップルターンの中で飛ぶ練習を行いたいと思っていました。しかし、上級生の人数が少なく毎日別個に練習するということは不可能であったので、あまりノガロの障害で特別なメニューで練習を行うことは出来ませんでした。騎乗しながら、障害を飛ぶ前に飛ぶか止まるか分かるくらい、ノガロの気持ちに左右されることが多かったので、いかに飛ぶ気持ちにさせるかが課題です。また右手前の回転、並びに右手前からの障害へのアプローチも苦手で、障害に入れず走られてしまうことが多々ありました。障害においてこれが自分が一番苦戦したところですが、シーズン終わりになってようやく、反抗が少し見られたときに多少強引でもよいので右手を大きく開きながら、左脚でしっかりはみ出さないように壁を作ることで、障害を切るのではなく障害の前に持ってくる感覚を得ることはできました。

野外障害においてはアリーナでの障害と異なり、彼の高いセンスを見る事が出来ました。野外馴致は主に宮川兄が行っていましたが、比較的どの障害もクリアすることが出来ました。ただ、やはり右手前の回転、障害へのアプローチ、ノガロの気持ちなどの要素が上手くクリアされないと飛ぶことは出来ないので、騎乗者の技術力向上は勿論のこと、ノガロの性質をよく理解し、彼に合わせた騎乗を考えることが最重要課題だと思います。

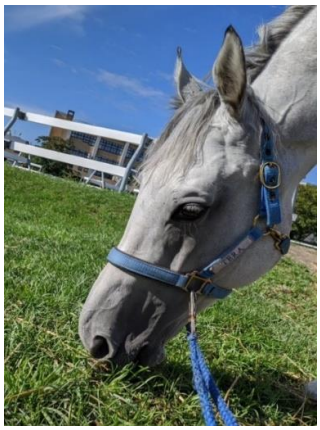
入厩報告

◆北叡号(ダノンクライム)◆

サラ　セン（入厩時は牡馬）芦毛
生年月日　2014年4月17日
北海道勇払郡安平町
父ヴィクトワールピサ
母シェルズレイ
入厩日　2020年9月3日

山中　竜馬

9月3日に入厩いたしました。競走馬引退後すぐ北大に来たので心配でしたが、乗用馬としての調教もされているようで、馬装や調馬索、騎乗に関しても特に暴れることなく済みました。来て暫くは調馬索や引馬をし、現在では FW や横木通過、クロス飛越までクライムは臆することなく進めることができました。久しぶりの新馬で現役組に知識がないので、江口兄の指導の下、調教を進めてまいりたいと思います。



北暁号について

駒田　智美

掲示板やブログでもお伝えいたしました通り、この度、2021年3月26日金曜日に、北暁号を安楽殺致しました。右前肢基節骨完全骨折で、予後不良と判断したことによる決断です。

3月8日月曜日、放牧中に跛行し、右前肢の球節とその周辺に腫脹と熱感を示し、右前肢を地面に付くことができなくなりました。当初は放牧中に前肢を捻ったことによる腱の損傷を疑い、指導部の江口兄、山川兄、OB の川崎兄に相談しつつバナミンやジクロフェナクによる鎮痛と冷却による消炎に努めて参りました。この時点では骨への損傷の可能性は低いと考えておりました。翌日に当たる３月９日には装蹄師の國藤さんにお越し頂きましたが、蹄葉炎の症状はありませんでした。

しかし、４日ほど経過した時点で腫脹の範囲が管全体まで拡大し、痛みについてもむしろ強まっている様子で、苦しそうに馬房内に座り込む姿が頻繁に見受けられるようになりました。通常の筋肉の損傷に比べて明らかに治りが悪いこと、腫脹部位が拡大したことから、骨折の可能性が濃厚になったため、レントゲンの撮影が必要であろうとの判断に至りました。３月１５日に、大動物診察の設備がある酪農学園大学にレントゲン撮影を依頼し、１９日に撮影したところ、右前肢の基節骨を完全骨折していることが判明いたしました。基節骨は繋の部分の骨です。

骨折線が複数本、基節骨全体に走っていること、最も大きな骨折線が大きく開いていることなどから、治療は困難であり、継続することは馬の負担に成りかねないと判断した為、苦渋の末安楽死させることを決断した次第です。

３月２６日午前中に安楽殺をいたしました。その後は北大の獣医学部の先生方のご厚意で解剖実習をして頂きました。死後も、最後まで私達の学びに繋げたいという、サブの意向で決定したことです。安楽殺も解剖も、大勢の部員に見守られる中で執り行いました。

ノーステアは2008年生まれ、2015年入厩の13歳の馬です。昨年、一昨年と2年連続で全日本学生賞典総合馬術競技に出場し、どちらも完走を果たした部の主力馬でした。性格は臆病で攻撃的でしたが、障害への意欲は素晴らしく、これからのさらなる活躍が期待されておりました。

始めてサブについてからの２年間、ノーステアには本当にたくさんのことを教わりました。どうしたら信頼してもらえるのか、指示を聞いてくれる時とそうでないとき

は何が違うのか。好きなこと、苦手なこと、怖いこと、得意なことは何か、どうやって教えてくれているのか。一年生の秋からはチーフとして、ノーステアを誰でも手入れできる馬にするべく、人間への恐怖心を取るために試行錯誤してきました。騎乗しての調教は山川兄ご指導いただいたり宮川兄にお任せしたりしつつ、私はそれ以外の部分や馬体管理を主に担当してきました。障害への意欲は素晴らしいのに、場所や人、他の馬を極度に怖がり、物見することが多かったため、選手と相談しながら他の馬や見慣れない障害物への馴致を進めていたところでした。

毎日のように顔を合わせ、愛情をこめて手入れしてきた馬と、このような形でお別れするのは、非常に悲しいことでした。まだ悲しみは癒えません。朝厩舎に行き、空っぽになったノーステアの馬房を見るたびに、大好きな彼にもう会えない悲しみと、安楽殺せざるを得なかった悔しさで胸がいっぱいになります。競技会で力強く障害を飛越する姿も、手入れ中においしそうに青草を食む姿も、最近見せてくれるようになった愛嬌のあるおねだりポーズも、もう見られない寂しさと喪失感はとても言葉に表しきれません。雪が解けたら体を洗ってあげようとか、青草が好きだから今年もたくさん食べさせてあげて夏バテにならないようにしようとか、そろそろ引き継ぎを見据えて本格的に噛み癖矯正に取り組もうとか、そういったことが、もう実行できなくなってしまいました。とてもとても寂しいです。

ですが、安楽殺を決断したことに後悔はありません。私たちにとっては辛い選択でしたが、ノーステアの苦痛を除くために、また、ノーステアという馬の尊厳を守るために、最善の選択をしたと思っています。怪我はしているものの元気いっぱい食欲旺盛なまま最期を迎えさせてあげられて、本当によかったです。

この度はOBの川崎獣医師をはじめ、井上部長、江口監督、山川兄、獣医学部の柳川先生、酪農学園大学の佐藤獣医師など、非常に多くの方々にお世話になりました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。お忙しい中厩舎まで足を運んで頂いたり、何度も相談に乗って頂いたりしましたが、この様な報告をすることになってしまい、なんと申し上げたら良いか分かりません。また、安楽殺を決断してからの1週間、中津兄、高橋姉、杉田姉をはじめ、たくさんの方に厩舎まで駆けつけて頂きました。私が入部するよりも前のノーステアとの思い出を教えて頂いたり、ノーステアにニンジンやリンゴを下さったり、本当にありがとうございました。

この度の故障は、放牧中の出来事であったため、はっきりした原因は分かっておりません。ですが、解剖の所見から、バランスを崩すなどして体重が普段はかからない方向からかかったことが原因ではないかということが分かりました。打撲によるものではないようです。

このような不慮の事故をもう起こさないため、再発防止に向けて部員同士で意見を出し合いました。具体的には、

1)　　特に冬季において馬場状態の確認の徹底
2)　　怪我を誘発しうる障害物の撤去
3)　　部員どうしで話し合った上での放牧
4)　　放牧用小パドックの設置

を遂行していく所存です。

最後に、大好きな大好きなノーステアに心からの感謝を込めて。今まで本当にありがとう。あなたが教えてくれたことを、あなたと作ったたくさんの思い出を、ずっと忘れません。

北海道大学水産学部馬術部

3年　清水　俊希

こんにちは。北水馬術部の清水俊希です。札幌の皆さんはお元気でしょうか。僕は1年生の頃に半年間くらい本学の馬術部に所属していたので、本学の同期の事を想うときはいつも1年生の姿でしたが、以前 SNS で本学馬術部の様子を見たら、みなさん「先輩の顔」をしていて驚きました。時の流れは速いものですね。さて、本年度の北水馬術部は、3年生二人、4年生二人、修士1年一人でスタートし、10月からは菅野兄(修士1年)が札幌から戻ってきてくれました。

北水馬術部は、毎週土日に函館の少年団と一緒に活動しています。子供たちや馬たちとのふれあいは日々の癒やしです。先生方や一般の方も個性的な方が多くて、毎週楽しいです。

本年度の部活動は4月から開始されました。しかし、開始されてすぐ、新型コロナウイルス感染拡大を受けて部活動は一時停止となってしまいました。5月からは「函館競馬場での活動に参加させていただく」という形で、人数を制限する・検温をするなど感染対策をとりながら活動を再開しました。

6月から7月にかけては、函館競馬場で函館競馬が開かれました。北水馬術部の部員はここで誘導馬のお世話のバイトをします。毎年、多くのお客さんが函館競馬場を訪れるそうですが、本年度は感染拡大の影響で無観客での開催でした。

11月はじめには、JRA 日高育成牧場で北海道三場馬術大会が開かれました。(結果は下に示しました。)日高育成牧場・札幌競馬場・函館競馬場からの参加がありました。僕にとっては初めての大会出場でした。部班競技での出場で、「部班は普段からやってるし練習通りやるだけ!」と高を括っていましたが、普段通りにすら動けませんでした。大会が特殊な環境であることを知り、また、普段の部班で自分がいかに馬を動かせていないかに気づかされ、モチベーションの高まりに繋がりました。たぶん、他の部員の皆さんもそう感じたのではないでしょうか。

11月末頃、感染拡大防止のために北大の課外活動が全面禁止になってしまいました。部報を書いている現在も全面禁止が続いています。一刻も早い課外活動の再開および新型コロナウイルス感染拡大の収束を願います。

本年度は非常にイレギュラーが多い年となりましたが、北水馬術部は感染対策に取り組みつつ、明るく楽しく活動をおこなうことができたと思います。来年度も大変な状況になると思いますが、部員のみんなで力を合わせて乗り越えていきたいです。

聞くところによると、本学馬術部には部員がたくさんいるものの、水産学部の2年生はいないそうで少し寂しいです。(1年生にはいるらしい。待ってるよ！)僕の中で本学馬術部は広報に力を入れているイメージがあるので、来年度はそれを見習って北水馬術部もバチバチに新入生を呼んでいきたいです。
それでは、心身に気をつけてがんばりましょう。おしまい。

11月8日 北海道三場馬術大会
低障害
桑原朋(M1) ディアビクサス号 タイム 92.99 減点 0 順位(13/17)
80cm クラス
菅野隼人(M1) メイケイレジェンド号 タイム 76.43 減点 1 順位(6/10)
ジムカーナ
菅野隼人(M1) スペースクルーズ号 タイム 95.91 順位(8/14)
佐藤凪沙(4) ディアビクサス号 タイム 123.09 順位(14/14)
部班競技
清水俊希(3) 北斗号 45.5 点 順位(5/5)

卒部にあたって

●宮川　寛希(工・主将)

皆さん、長い間私に付き合ってくれてありがとうございました。楽しかったこと、うれしかったこと、苦しいこと、辛いこともたくさんあったのであっという間だったとは言いたくないですが、4年間全力で駆け抜けた馬術部生活でした。

特に3年の時担当させていただいたカノンコードからはたくさんのことを学びました。この馬は、自分が1年生の時の新緑杯で杉田姉が乗っているのを見て、3年生の時に北日に出ると決めてずっと追いかけてきた馬でした。後脚が悪く試合に出られるかどうかという不安もあった中で、シーズン終わりまで本当によく頑張ってくれました。カノンコードと共に頑張った1年間があったからこそ、4年生の時自信を持って行動できたのだと思います。

ここで、自分が馬術部の4年間で大事にしてきた考え方を2つ記しておきます。一つは、「自分から行動する」ということです。幸いなことに、北大馬術部はやろうと思ったこと、頑張ろうと思ったことは何でもできます。経験のある馬に乗って北日全日を目指すのか、新馬で一つずつ新しいことに挑戦していくのか、ピザ窯や野外障害などを作製するのか、試合には出なくても4年間で知識と技術を身に付けていくのか、全てが正解だと思います。どうか、現役の皆さんは、私なんかどうせ頑張っても…と思わず、失敗を恐れず自分の思う道に積極的に行動していって欲しいです。最後の4年生の時、乗らせていただいたノーステアは本当に動かない馬でした。春先、現役の誰が乗っても速歩すら出るか出ないかの馬になってしまっていました。その頃までは、新馬に乗ってそこそこの結果を残して引退しようと考えていましたが、それは自分がそうしたいからではなく、ただ不安やプレッシャーから逃げているだけで、本当は山川兄が昨年完走した全日総合を完走したい、冬場狂暴なノーステアを頑張って手入れしてきた2年生たちと結果を残したいという気持ちがありました。あの時、自分の本当の気持ちに正直に行動することを恐れなかったこそ、考え努力することをやめなかったからこそ、最後に全日総合完走、植田は2年生ながらも全日 MD 完走できたのだと思います。

もう一つは、「他人の意見を否定しない」ということです。私自身、たくさんのところに合宿をさせていただき、また OB の方々も含め色々な人から教えていただきましたが、馬術には、本当に様々な考え方があります。調教面、人の練習、組織の運営、人間関係など、腑に落ちないこともたくさんあると思います。だけども、自分の仲間がそれらを否定することはあったとしても、自分自身は一度受け入れ考えてみる

ことで、自分の成長につながることが多くあったと感じています。また、他者の意見の尊重というのは、自分の意見、考えがないと周りに流されるだけでできないものだと思います。部としての活動に方針はありますが、1人1人の馬術部生活に正解はありません。現役の皆さんには、時には衝突もあるかも知れませんが、自分の目指すべき道をしっかり踏まえつつ、お互いに成長できるよう頑張っていって欲しいです。

最後になりますが、自分は今までの馬術部員の中で最も周りの人から支えられた人なのではないかと思っています。最後の2年間、札幌に自分の同期はいませんでしたがとても楽しく充実した馬術部生活を送ることができました。これも普段練習を見てくださる OB 指導部の方々、遠方から自分のことを気にかけてくださる OB の方々、そしてこんな自分ながらも一緒に頑張ってくれた後輩全員のおかげです。また、1つ上の代の自分や田中をここまで戦えるように強くしてくださった羽二生姉、諦めないよう支えてくださった山川兄、須藤姉、北大馬術部は、代が変わると方針も変わるとよく言われますが、先輩方のしてくださったことはしっかりと受け継いでいると思います。4年間を終えて、残っているのは、お世話になった方々への感謝の気持ちです。この感謝の気持ちを忘れず、今後の社会人生活にも生かしてまいります。

宮川兄と北暁号、全日(余力)　©UNIVAS

●佐藤　凪沙（水産）

自分は函館に移りましたが、宮川君と卒部を迎えることができ、安心しています。札幌での2年間は、とても充実していた日々でした。1年生の新人戦から遠征の機会があり、2年生ではフラッグを担当させていただいて、毎回のように試合に連れて行ってもらいました。先輩方の熱心なご指導の下、1日数鞍乗せていただき、試合の出場機会も多く、恵まれた馬術部生活を送っていた、と振り返って思うばかりです。フラッグとまともに完走できなかったのが悔やまれる点ですが、、、入部した理由は、変わったことがしたかったという単純なものですが、当初の想像以上の経験ができました。1日中馬の世話をしたり、命がけで制御困難な馬に乗ったり、地元の友人には、部活の話をする度に驚かれました。もともと大学生になってから運動部に入るつもりがなかった私ですが、馬術部のおかげで、同期と切磋琢磨したり、先輩に叱られたり（励まされたり）、後輩との関わり合い方を考える機会に巡り会い、周囲の観察力や忍耐力など生きていく上で大事な力が身についたような気がします。今後、難局に当たったときは毎回、馬術部のことを思い出すのでしょう。そして、忘れてはならないのは、家族のような仲間ができたことです。札幌にいた頃はほとんどの時間を馬術部員と過ごしていたと言っても過言ではありません。甘えられる先輩や、素直で可愛い後輩、個性的で優しい同期に囲まれて幸せでした。毎朝、必ず誰かに会うことができて、とても心強かったです。

今年度は、同期で一番の苦労人である宮川君が無事に全日完走を果たし、やっと彼の努力が報われたようで嬉しい限りでした。1年生のときのへなへなな宮川君を思うと、とても信じられませんが、確かに彼は誰よりも頑固で努力家でした。周りからなんと言われようと、諦めずに最後まで生き残り、後輩を大切にし続けた彼を褒め称えます。あと、同期が２人だけになってしまったとき、もう少し、宮川君に優しくしてあげれば良かったと後悔しています。ごめんね。社会人になっても、きっと大活躍してくれることでしょう。

卒部とはいえ、私は大学院に進学するため、あと2年は北水馬術部にいます。函館から入部した人たちにも、馬術部に入ってよかったと思ってもらえるような部活になるよう、もうひと頑張りしなくてはなりません。また、どこかで本学のみなさまとはお目にかかるかと思います。引き続き、よろしくお願い致します。ではでは。

部員紹介

●三年目

☆田中沙季(主将)

学部:農学部　　好きな馬:アヒル・アンチョ

個性豊かな大部員をまとめる我らが主将。その実力は頭 1 つ飛び抜ける。愛することは食べること、料理の腕は頭 2 つ飛び抜ける。

☆伴日向子

学部:獣医学部　　好きな馬:ノガロ・ドラゴン

運営班の縁の下の力持ち。彼女なしでは出番表は出来上がらない。ノガロとドラゴンに長らくサブについているが、その愛情はたして. . . 。

☆森翠

学部:薬学部　　好きな馬:アンチョ・クライム

馬術部の良心。基本怒らない。たまに毒を吐く(かも)。目下アンチョとクライムの三角関係に悩み中。

●二年目

☆石田隆悟

学部:理学部　　好きな馬:ノガロ

いつも面白いこと探してる。少年。ときどき千鳥。馬術部ツッコミ班が一員。

☆井上芽依

学部:医学部　　好きな馬:ドラゴン・アヒル

ドラゴンライダーに俺はなる！粗相の天才。馬術部ギター班とお絵描き班を兼任。

☆北出右京

学部:理学部　　好きな馬:カノン

箱番の長。親しみやすさNo.1。現住所:部室

☆植田咲喜

学部:獣医学部　　好きな馬:ペイスン・ノーステア

獣医学部が生んだ全国クラスのボケの天才。ヨガやってる。ヨガの呼吸。

☆駒田智美

学部:獣医学部　　好きな馬:ノーステア・クライム

世紀末覇者。武士。ノーステア愛がすごいオタク。

☆坂本信仁

学部:理学部　　好きな馬:ドラゴン

職業:エンジニア。多趣味。この男の辞書に不可能はない。編み物からトラックの運転まで何でもござれの数学科。

☆佐藤香織

学部:工学部　　好きな馬:カノン

奈良が生んだ酒豪。豪快な女。冴えるツッコミ。ツッコミたすかる。

☆関貴生

学部:教育学部　　好きな馬:アヒル

見た目のいかつさ No.1。ヤ〇ザ。馬術部関西人枠ボケ担当。

☆曾和祐稔

学部:農学部　　好きな馬:アンチョ

体力オバケ。妖怪。マック戦士。体の 80%マクドナルド。2 年目から恵迪寮に住み始めた猛者。

☆武井陸(副将)
学部:理学部　　好きな馬:カノン

我らが副将。ストレスが酒量に直結。金爆のオタク。

☆早貸虎之介
学部:理学部　　好きな馬:ノーステア

競馬大好き。勝負師。サカナクションのオタク。札幌を愛する寒がり。

☆沼田栄花
学部:獣医学部　　好きな馬:ドラゴン

一番見た目にだまされやすい。ドラちゃん大好き。強い女 part3。

☆藤村良汰
学部:農学部　　好きな馬:アヒル

馬術部の良心。苦労人。お母さん。料理人。

☆安田理紗
学部:獣医学部　　好きな馬:アンチョ

強い女。安田財閥のご令嬢。ワイナリーにコネを持つ。アンチョ愛がすごいポケモントレーナー。

☆山中竜馬
学部:理学部　　好きな馬:クライム

我らがオシャレ番長。唯一の経験者。みんなの頼れる作業長。NO と言えない男。

☆若林壮真
学部:文学部　　好きな馬:ペイスン

嵐のオタク。馬術部スピリチュアル担当。マダムキラー。コミュ力はピカイチ。運動神経すごい。

●一年目
☆青木貴哉
学部:水産学部　　好きな馬:アンチョ

四国の主。常に笑顔を絶やさず青木専用アルバムを作ったほうがいいのではと思うほどみんなから写真を撮られている。いつも舌鼓の練習をしており、この前自動車学校でアクセルを踏みながら舌鼓を打っていた。お腹が減ると不機嫌になる。

☆阿部悠和
学部:総合理系　　好きな馬:シュガー

ブルガリア語を履修している。遅刻して小谷に長文でキレられ、それを超える長文で謝っていた。

☆井嶋南里
学部:総合文系　　好きな馬:カノン

総合文系で入学しながらも微積線形化学物理生物を履修、二年生での理転をもくろむ努力家。住まい天下の恵迪寮。

☆内田悠人
学部:総合理系　　好きな馬:アヒル

鳥t…島根出身。どことなく不調。盲腸炎を患って入院したのは記憶に新しい。

☆江口柚希
学部:総合理系　　好きな馬:カノン

世界の綺麗な面だけを見て育ってきた。詐欺に遭いそうでいつもドキドキさせられる。

☆戎真由香
学部:総合理系　　好きな馬:ノガロ

馬術部一年で唯一垢抜けているコミュ力お化け。ジャスティンビーバーの元カノでもある。

☆小久保奈於
学部:工学部　　好きな馬:シュガー

理系の理詰と関西弁の圧で意図せず畏怖の対象となってる。姉御肌ともいう。

☆桑村謙吾
学部:法学部　　好きな馬:

メガネ三兄弟の長男。未だに中村と間違えられる。いち早く免許を取得し、みんなの足として働かされても我慢してる！！長男だから我慢できたけど次男だったら我慢できなかった。

☆小谷慧
学部:工学部　　好きな馬:ノガロ

容姿端麗、頭脳明晰、落とした女は星の数。入って二日でA埒作りを行う天才で猫にもモテモテ。ちなみに一年目のみんなの紹介文書いたのも俺。

☆佐伯彩
学部:獣医学部　　好きな馬:ノーステア

部活への出席率の少なさに見合わない実力でコソ練をしているともっぱらの噂。最近親知らずを抜いた。

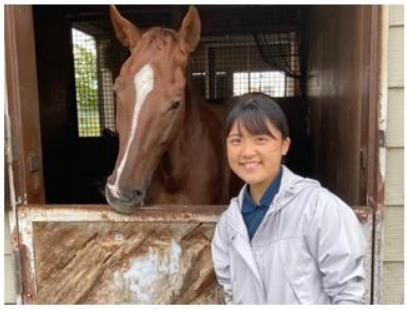
☆澤井歩花
学部:看護栄養学部(天使大学)　　好きな馬:シュガー

筒井に「対人関係に難あり」と言われたことを根に持っている。本人は気付いていないかもしれないが語尾の「さ↓」は方言なのさ↓。

☆末村唯
学部:総合理系　　好きな馬:アヒル

横浜から神奈川にマウント取るのはやめた方がいいと思う。自分で髪の毛を切っているにも関わらず女子校を生き抜いたことからその高いポテンシャルが窺える。

☆高橋知里
学部:医学部　　好きな馬:カノン



馬術部の太陽。いつでもどこでもニコニコしている。馬に鞭を入れる時もにっこりスマイル。

☆土崎啓一郎
学部:総合理系　　好きな馬:ベイスン・カノン

でかい。とにかくでかい。そして人当たりが抜群にいい。心優しき巨人。

☆筒井千香子
学部:看護栄養学部(天使大学)　　好きな馬:カノン・ノガロ

写真右。佐伯をこなく愛する。先輩の輪に溶け込むのがうまい。酒を呑むのと呑ませるのとが趣味。

☆中村橋太郎
学部:総合理系　　好きな馬:アセル

メガネ三兄弟の次男。下の名前のインパクトの割に先輩から未だに呼び間違えられる。男子校由来の悪いとこがたまに漏れ出てる(伝聞)。

☆西田康晟
学部:文学部　　好きな馬:ベイスン

馬術部の野球部代表。最近頭を丸めて野球部感が増した。主将に担ぎ上げられそうになっているが箱番長でお茶を濁そうとしている。かわいい。

☆林朋花
学部:経済学部　　好きな馬:ドラゴン

一年では希少なドラゴン好き。何度噛まれようともその思いは朽ちない。

☆法貴紀雅
学部:総合理系　　好きな馬:ノガロ

京都人の誇りを失ったマイペース。暇な時も暇じゃない時も呼ばれたらすぐに部室に来るので筒井によく電話され、夕当を手伝わされている。

☆堀川壮琉
学部:獣医学部　　好きな馬:ドラゴン

馬術部のサッカー部代表。乗馬用手袋をつけるともうキーパーにしか見えない。よく部室の三角木馬に跨っている。

☆松嶋秀幸
学部:獣医学部　　好きな馬:アンチョ

BMI が 18 を切る日本人不健康男性。シャイボーイ。将来の夢はフィンランドの羊飼い。

☆水木優之介
学部:獣医学部　　好きな馬:アヒル

地理の知識量が変態のそれ。人口と面積、最寄りの路線から市町村を当てられるという特技を持つ。

☆宮下祥馬
学部:水産学部　　好きな馬:ベイスン

メガネ三兄弟の三男。距離を詰めるのが早いと定評がある。仲良くなると見た目にそぐわないおちゃらけた部分を見せてくる。

☆渡辺晴菜
学部:獣医学部　　好きな馬:アンチョ

落ち着きのある雰囲気を纏ってはいるもののはしゃぎすぎて前歯を落とす、落馬回数ダントツ首位、ロック好きという意外過ぎる面をも併せ持つ。

☆亘理はろか
学部:法学部　　好きな馬:カノン

安全第一、常にヘルメットを装着している。実家が近いのか両親が馬場に顔をだすことも。

現役部員名簿

氏名	学部	役職
3年目		
田中沙季	農学部	主将、運営
伴日向子	獣医学部	馬匹、運営
森翠	薬学部	会計、運営
2年目		
石田隆悟	理学部	主務、運営
井上芽依	医学部	運営
植田咲喜	獣医学部	馬匹
北出右京	理学部	作業
駒田智美	獣医学部	運営
坂本信仁	理学部	馬匹
佐藤香織	工学部	作業
関貴生	教育学部	作業
曾和祐稀	農学部	馬匹
武井陸	理学部	副将、運営
沼田栄花	獣医学部	馬匹
早貸虎之介	理学部	作業
藤村良汰	農学部	作業
安田理紗	獣医学部	馬匹
山中竜馬	理学部	作業
若林壮真	文学部	会計
1年目		
青木貴哉	水産学部	作業
阿部悠和	総合理系	作業
井嶋南里	総合文系	運営
内田悠人	総合理系	作業
江口柚希	総合理系	運営
戎真由香	総合理系	運営
桑村謙吾	法学部	作業
小久保奈於	工学部	運営
小谷慧	工学部	作業
佐伯彩	獣医学部	馬匹
澤井歩花	看護栄養学部（天使大学）	未定
末村唯	総合理系	会計
高橋知里	医学部	運営
土崎啓一郎	総合理系	作業
筒井千香子	看護栄養学部（天使大学）	会計
中村橘太郎	総合理系	作業
西田康晟	文学部	作業
林朋花	経済学部	運営
法貴紀雅	総合理系	馬匹
堀川壮琉	獣医学部	作業
松嶋秀幸	獣医学部	作業
水木優之介	獣医学部	馬匹
宮下祥馬	水産学部	作業
渡辺晴菜	獣医学部	運営
亘理はろか	法学部	作業

後援会会報

昨年の部報では会報を掲載できなかったことを踏まえ、本年度の部報ではお二方から寄稿を賜りました。

2020年北大馬術部後援会報告

町田　雅人

2020年は、新型コロナウイルス流行により、人の移動及び密を避ける行動が求められた状況であり、後援会員間及び現役部員との交流を目的とした行事等は、実施を自粛せざるをえない年でした。このような状況下においても、多くの会員の皆様に会費を納入頂き、この場を借りまして、御礼申し上げます。

現役部員も同様にコロナ禍の影響により活動が大きく制限されまた、国内の経済活動の停滞により、アルバイトなどの部の収入活動に大きな影響が出ることが懸念されましたが、2020年は、2019年に続けて多くの新入部員を迎えられたことおよび大会の中止により遠征費が減少したことなどから、この影響なく、2020年分だけで2019年と同程度の繰越金を残せたとの報告を受けております。

2020年の現役への援助としては、全日学への遠征費（山梨県馬術競技場で開催。馬3頭、選手3名が出場）の補助として、100万円の補助を行いました。上記しましたように現役部員の財政状況は一時期の窮状を脱しておりますが、後援会員の皆様からの納入いただいた会費を有効に現役部員の支援に活用すべきとのご意見があり、実施したものです。今後は、年の初めにその年の現役への支援内容について、現役部員と事前に相談しながら進めていく予定です。

現役の財政状況が改善されている状況においての現役への支援について、ご意見がありましたら、ぜひ、後援会宛にご連絡お願いいたします。

（後援会メールアドレス：hokudai.bajutsubu.kouenkai@gmail.com）

なお、例年より遅れておりますが、近々、2020年の後援会会計報告と2021年の会費の納入のお願いを発送する予定です。まだまだ、コロナ禍の終息は見えない状況ではありますが、引き続き後援会活動にご協力をお願い致します。

―以上―

コロナ禍による中止と継承

会長　**市川　瑞彦**

この1年の馬術部活動は、コロナ禍で道馬連主催５大会が2回のみしか実施されなかったり、北日本学生大会もビデオ審査による開催で行われたりしたなど、多くの影響を受けざるを得ませんでした。私自身もあまり部室・馬場に顔を出すこともなく終わり、実情についてよく把握しているわけでもありませんが、これらの大会中止などから部活動が影響を被ることは避けられないかと思います。実際に後になってその後遺症もなく、私の杞憂に終わればいいと思いますが。

しかし、馬術部はこれに不平を言うわけにはいかないでしょう。新学期は始まっても部活動は自粛、授業はリモートが大半という中で、馬術部は幸いなことに、馬を繋養しているという特殊性が考慮され、例外的に部活動が認められ、継続できたようですから。この点は、他の運動部に比べて、馬術部はとても恵まれていたと思います。新入生に対する馬術部の宣伝活動や入部の勧誘活動も大学内に学生がいないので制約が多かったのではないかと思います。それにもかかわらず、多くの新入生が入部してくれたのは非常によかったと思います。これも新入生がいかにリアルな対話、馬との関りを求めているかの表れではないかと推測しているのですが、どうでしょうか。

しかし一方で、大会が中止になったことの影響は、やはりかなり大きいのではないかと危惧しています。大会運営面では、いろいろなノウハウを下級生に教えたり、実際に経験させて臨機応変に対処したりすることを体験する機会が少なかったことは、今後に影響する可能性があるでしょう。また、馬にとってみても、同じことが言えるでしょう。特に経験の少ない若い馬にとっては、北大馬場とは違う大会会場の雰囲気に慣れるとか、見知らぬ多くの馬がいる準備馬場で落ち着いて騎手の指示に従って運動するとか、北大馬場とは異なる色や形の障碍を飛越するとか、未体験の野外走行のコースを体験したりするとか、そういった機会が少なかったことでしょう。選手にとっても、同じように環境も馬の状態も異なる条件下でのいかに対処するかを学ぶ機会が少なかったであろうことも気になるところです。

１－２年生部員が多いのは何と言ってもパワーの源泉ですので心強い限りです。しかし、運営面や新馬調教などにはやはり一定程度の数の経験豊かな上級生が必要でしょう。数が多いことは同時に責任の所在が不明確になり、引継ぎなどがあいまいになり易いことにもなる可能性がありますので。このまま頑張れば、部員の数、学年構成も適正になることも期待できましょう。何と言っても馬術部は体育会所属の「運動

部」です。多様な部員を認めつつも、大会でよい結果を目指す「戦う集団」としてコロナ禍の困難を意識して乗り切っていただきたいと思います。

編集後記

駒田　智美

今年度の部報の編集を担当いたしました駒田です。過去の部報や先代の先輩方のマニュアルを参考に作成を進めましたので、形式に沿った部報になっていると思います。ここ２年程、簡易的な部報を発行するのみに留まっており、OB の皆様にはご迷惑をおかけしました。また、発行の時期も不定期になっておりましたが、今年度からは4～6月を目処に発行して参ります。

本部報から、本格的に web 版部報の発行を進めて参りたいと思っております。これにつきましては、原則として、後援会にメールアドレスをご登録いただいている皆様にはメールにて、いただいていない皆様には従来通り郵送にて送付致します。また、メールアドレスをご登録いただいている方で、紙版の部報をご希望される場合は、別個に対応させていただきますので、こちらの部報を送信いたしましたメールの本文をお読みいただければと思います。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りにはいかない1年間でした。部員が全員で顔を合わせる機会も設けられず、更に北日・全日の開催も危ぶまれる状況の中、如何に意思の疎通を図るのか、どうやって部全体のモチベーションを保ち続けるのかが鍵となったシーズンだったなと感じます。そんな中でも宮川兄、田中姉、植田が全日に出場し、素晴らしい結果を残すことができました。これもひとえに皆様のご支援、励まし合ってのことです。この場をお借りして深く御礼申し上げます。また、ご寄稿いただいた井上先生並びに OB の皆様、現役部員にもこの場をお借りして御礼申し上げます。皆様のおかげで充実した内容になりました。

ノーステアの件につきましては、部報発行時期との兼ね合いから本部報で特集を組めなかったため、次号で特集できればと思っております。

2021本年度の活動もまだ先が見通せない状況ですが、部員一丸となって励んで参りますので、見守って頂ければと思います。今後とも北大馬術部をよろしくお願いいたします。

北海道大学馬術部部報　　第６４号　令和３年　５月発行
編集者　北海道大学馬術部部報担当
駒 田　智 美
発行所　北海道大学馬術部
〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目
TEL/FAX　０１１－７３７－１６２６
銀行口座　北洋銀行 319-1-0443731
表紙デザイン　井上　芽依